



「手のひらサポート」アンケート

—甲状腺がん当事者の声 2022

甲状腺がん
と診断された
あなたと家族を
支えます

ほとんどが
なによ
うに

photo by Nonoko Kameyama

 3・11甲状腺がん子ども基金 「手のひらサポート」給付金

資料請求・お問い合わせは
0120-966-544



3・11甲状腺がん子ども基金
3・11 Fund for Children with Thyroid Cancer



「手のひらサポート」アンケート

—甲状腺がん当事者の声 2022

「3・11 甲状腺がん子ども基金」は、東京電力福島原発事故後に、
甲状腺がんと診断された子どもと家族を支えるために、
2016年、弁護士・医師・市民が設立しました。
以来、国内外の多くの方からのご寄付のみによって運営している、
特定非営利活動法人（NPO）です。

目次

◆福島原発事故後の甲状腺がん—検査と結果	3
Ⅰ アンケート結果の概要	4
1 当事者の状況	5
2 自治体や政府、医療機関への要望	8
◆まとめ—当事者の声から見えること	10
	*
Ⅱ 福島県版	13
Ⅲ 福島県外版	29
	*
◆「手のひらサポート」活動紹介	41

【凡例】

*自由記述回答の表記について

- ① [] 内は、現在の年齢・性別・事故当時の居住地
- ② 福島県の地域表示……「避」=避難地域等 13 市町村、「中」=中通り、「浜」=浜通り、「会」=会津地域
- ③ ●は本人、◆は保護者による回答
- ④ 自由記述のみ、特例支援 4 名（福島県 1・福島県外 3）の回答を含めた

【用語解説】

- ① **半葉摘出**：甲状腺の半分を摘出する手術。がんが広がっていない場合、半分を残すことで甲状腺ホルモン剤を飲まずにすむことが多い。全摘出では一生ホルモン剤を飲む必要がある
- ② **アイソトープ（RI）治療**：甲状腺がヨウ素を取りこむ性質を利用し、甲状腺がん細胞が肺などの遠隔組織に転移した場合や、甲状腺全摘出後に、再発を防ぐ目的で「放射性ヨウ素」を内服してがん組織を破壊する治療法
- ③ **チラーヂン**：甲状腺ホルモン製剤
- ④ **AYA 世代**：Adolescent and Young Adult（思春期・若年成人）、15 歳から 30 歳代までの世代を指す
- ⑤ **福島県「甲状腺がんサポート事業」**：「県民健康調査 甲状腺検査」二次検査後の「甲状腺がん（疑い）」に対して、保険診療の医療費等の支援金を交付する事業。18 歳までは医療費無料のため、19 歳以降に適用。病院での支払い後、必要書類を揃えて申請する。

◆ 福島原発事故後の甲状腺がん—検査と結果

1986年のチェルノブイリ原発事故で、大量に放出された「放射性ヨウ素」による甲状腺の被ばくが原因で、事故当時18歳以下だった人たちに甲状腺がんが増加しました。この経験から、福島原発事故後、子どもたちの甲状腺がんが増えるのではないかと心配が起こり、福島県は、「県民健康調査」の重要な項目として「甲状腺検査」を開始し、現在も継続しています。検査の流れとこれまでの結果を示しました。

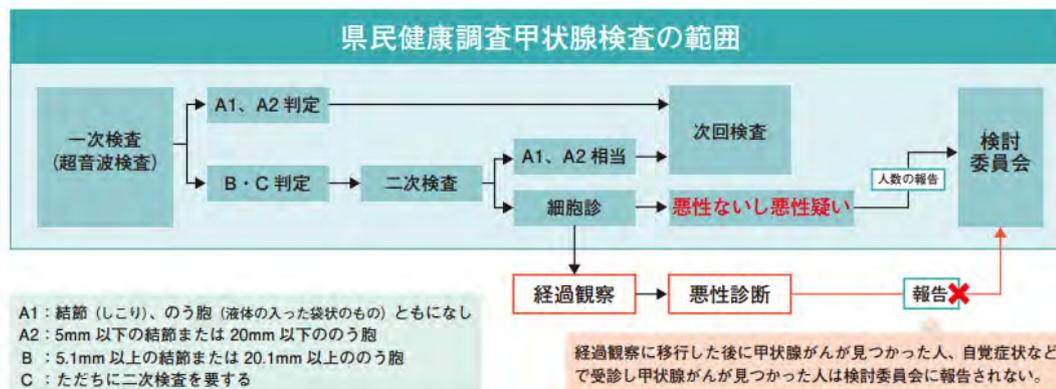
1 「県民健康調査」甲状腺検査 —18歳以下の子ども約38万人を対象

福島県では、2011年10月から事故当時18歳以下の子どもと胎児、約38万人を対象に「甲状腺検査」を開始。検査は、20歳までは2年ごとに、それ以後は5年ごとの節目に超音波を使って行われています。

一次検査で「A1・A2判定」の場合は、2年後の次回検査へ。「B・C判定」の場合は「二次検査」に進み、必要と判断されれば「細胞診（甲状腺に針を刺して組織を取り細胞を検査）」を行います。細胞の形態が「悪性ないし悪性疑い」であれば、本人の希望によって手術し、術後の組織検査で悪性（＝がん）かどうか確定診断されます。検査の結果は、福島県立医科大学から、県に設けられた諮問機関である「検討委員会」に報告され、同時に一般公表されます。

2017年3月、当基金の問い合わせが契機となり、集計に含まれないケースがあることがわかりました。二次検査で「悪性ないし悪性疑い」と診断されず、経過観察となった場合、その経過中にがんと診断されても検討委員会に報告されず、したがって一般にも知らされません。がん登録されていても、検討委員会の発表に入っていない人が、2018年末までに43人いたことが、今年9月に報告されました。2019年以降の人数はまだわかりません。

■ 「県民健康調査」における甲状腺検査の流れ



2 検査の結果 —280人以上におよぶ甲状腺がん診断

検討委員会が発表した検査結果は以下のとおりです。

■ 「甲状腺がんないし悪性疑い」と診断された件数〈2022年9月検討委員会発表数〉

回 実施年度	1 巡目検査 2011-13	2 巡目検査 2014-15	3 巡目検査 2016-17	4 巡目検査 2018-19	5 巡目検査 2020-22	25 歳 節目検査	合計
がん/疑い人数	116	71	31	39	11	16	284
手術数 手術結果	手術: 102 がん: 101 良性: 1	手術: 56 がん: 56	手術: 29 がん: 29	手術: 34 がん: 34	手術: 6 がん: 6	手術: 10 がん: 10	手術: 237 がん: 236 良性: 1
受診者数 (受診率)	300,472 (81.7%)	270,552 (71.0%)	217,922 (64.7%)	183,407 (62.3%)	74,964 (29.6%)	9,841 (9.1%)	

*経過観察などからがんと診断され手術した43人はこの人数に含まれていない

I アンケート結果の概要

■調査要項

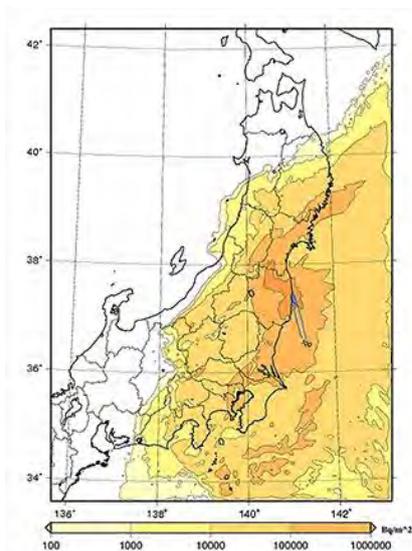
2011年3月に起きた東電福島原発事故によって放出された、甲状腺がんの原因となる放射性ヨウ素は、東北、関東甲信越一帯に拡散しましたが、組織的・継続的な「甲状腺検査」を行っているのは福島県のみです。

NPO法人3・11甲状腺がん子ども基金「手のひらサポート」は、福島県のみならず、放射性ヨウ素が拡散した地域に事故当時住み、事故後、甲状腺がんと診断された人へ、療養費10万円を給付してきました。2022年8月より、この額を5万円増額し、すでに給付を受けた人にも遡及給付をしています。その際に、現状や心配ごと、当事者への支援や「甲状腺検査」についてたずねました。

ここでは、そのアンケート結果の概要、および福島県内と県外の比較、意見の抜粋を示します。詳細は、II福島県版・III福島県外版にまとめました。

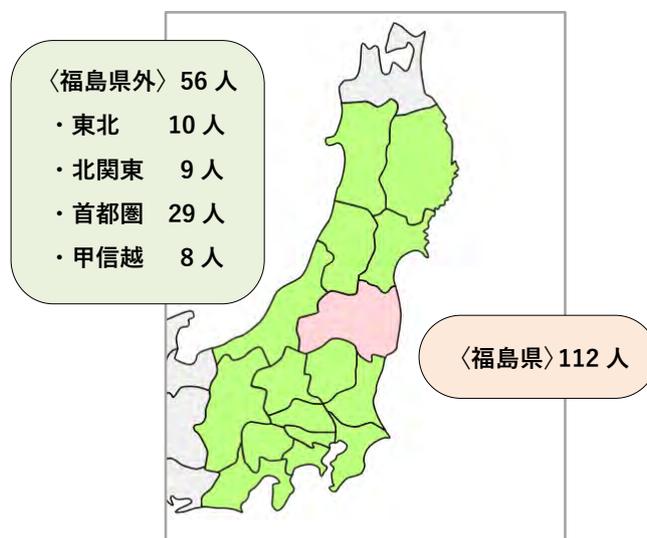
- 調査実施者** : NPO法人 3・11 甲状腺がん子ども基金
- 対象者** : 当基金療養費給付事業「手のひらサポート」受給者
(福島原発事故当時18歳以下で対象地域に居住、事故後甲状腺がんと診断された人)
- 対象地域** : 1都15県 (秋田、岩手、山形、宮城、福島、栃木、群馬、茨城、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、長野、山梨、静岡)
- 調査実施期間** : 2022年7月11日～10月25日
- 実施方法** : 郵送
- 回収率** : 168人/194人 (86.6%)
 福島県 112人/129人 (86.8%)
 福島県外 56人/65人 (86.2%)
- 回答者** : 女性108人、男性60人 (本人109人、保護者59人)
 福島県 女性62人、男性50人 (本人69人、保護者43人)
 福島県外 女性46人、男性10人 (本人40人、保護者16人)
 事故当時の年齢：福島県 3歳～18歳、福島県外 2歳～18歳

■原発事故当時の放射線ヨウ素拡散シミュレーション図 (出典：日本原子力研究開発機構)



■回答者の事故当時居住地域

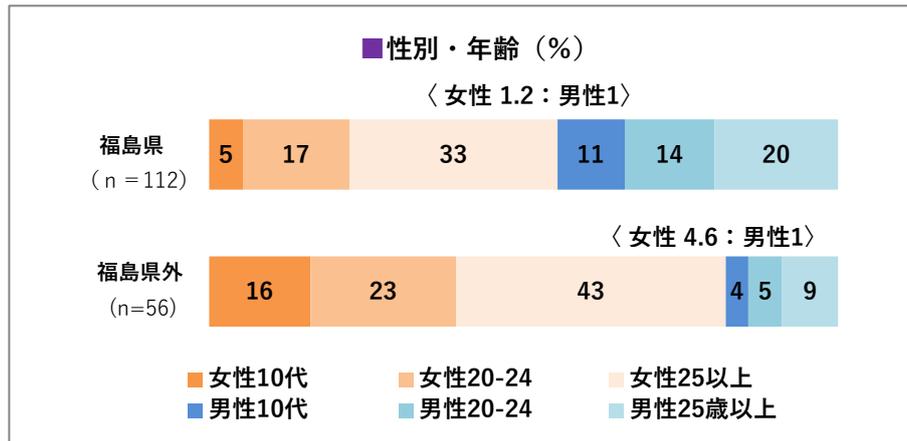
* 支援対象地域は左図を基にしています



1 当事者の状況

■性別・現在の年齢

事故から10年以上が過ぎ、多くの人は20代になっていますが、事故当時10歳未満で現在10代の人でも福島県16%、県外20%を占めます。甲状腺がんは特に思春期以降、男性に比べ女性が「3～5倍」と大きな差が出るがんです。回答者の男女比は、福島県で「1：1.2」、福島県外では「1：4.6」。福島県外は、広域かつ人数も限られる面はありますが、甲状腺がんの一般的男女比と一致します。福島県では、男性の比率が散発性の甲状腺がんよりも高いことが特徴です。



■診断*・手術・RI治療の状況

「甲状腺検査」が定期的に行われている福島県では、がんが早期に発見されており、甲状腺「半葉摘出」が80%以上を占めます。

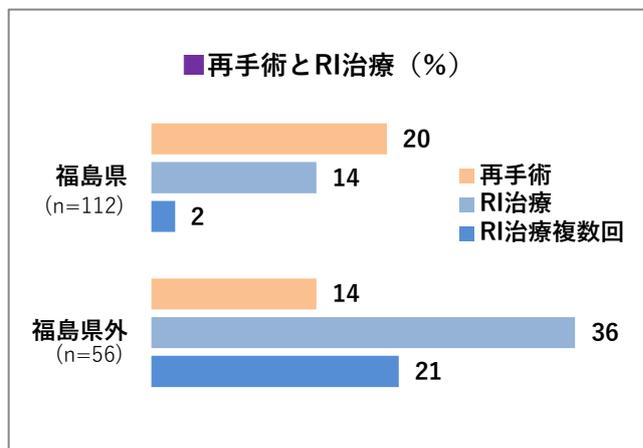
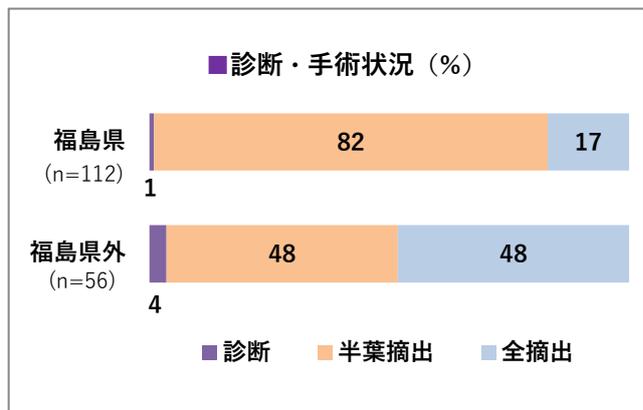
福島県外は、「半葉摘出」と「全摘出」が同率です。

* 診断：がんと診断され、まだ手術をしていない人

「再手術」をした人は、福島県20%、県外14%と福島県の方が若干高くなっていますが、「アイソトープ (RI) 治療」は、福島県14%、県外36%、「RI治療複数回」の人は、福島県2%、県外21%と大きな差があります。

福島県外では、甲状腺がんが進行した段階で発見され、重症化している傾向があります。

「RI治療」は、内部被ばくを伴う過酷な治療法であるため、「RI治療」まで進行した症例の割合が少ないことは本人にとっても社会にとっても非常に大きなメリットです。

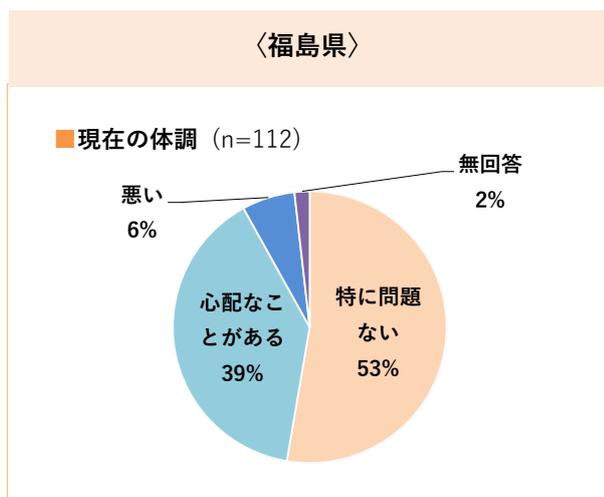


1) 健康状態

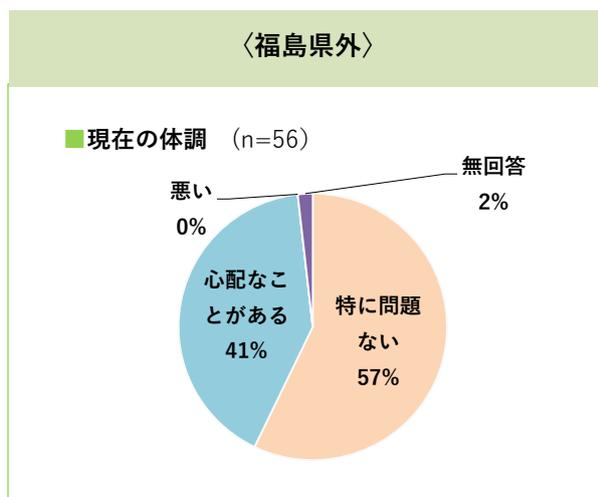
現在の健康状態については、福島県と県外ではほぼ同様の傾向です。「特に問題がない」との回答は半数を超えています。現在の心配事として「体調不良、疲れやすさ」をあげる人が4割あり、「メンタル面の不調」をあげる人も少なからずいます。福島県では6%の人が「体調が悪い」と回答しました。将来の心配事は、「再発・転移」「妊娠・出産」に関することが主となっています。また、本人は「問題ない」としていても保護者からはそう見えないという回答もありました。

福島県では、手術後に食事中的ヨウ素制限を受けている人があり、食事制限か甲状腺ホルモン剤服用かの選択に悩む声もあります。

対象者は、小児からAYA世代であり、健康面に関し、医療機関でのサポート、ならびに社会的問題としての行政の支援が望まれます。(意見は抜粋です)



- 疲れやすい。将来が不安〔26・女性・中〕
- 術後から現在に至るまで、精神的に病んでしまうことが定期的にある。手術が影響しているのか、少し心配〔24・男性・中〕
- ◆ 体力がなく学校から帰ってくると夕食を食べずに眠っている〔16・男性・浜/母〕
- 再発しているので心配は尽きない。転移しているのではないのか、この先出産できるのか、あと何年生きられるのか、といつも考えている〔26・女性・中〕
- 甲状腺、婦人科、内科と通院が多くて、今後が不安〔27・女性・避〕
- ◆ 再々手術の可能性がある〔24・女性・中/母〕
- 妊娠・出産できるか、健康な子が産めるか。医者からは検査していれば大丈夫とは言われているが心配な部分がある〔27・女性・中〕
- 半摘後、甲状腺ホルモンが安定せず、食事療法をしている。好きなものが食べられず辛い。良くなる日が来るのか、検査のたびに落ち込む〔25・女性・避〕
- ◆ 食べ物に制限があり、ストレスになっている〔19・女性・中/父〕

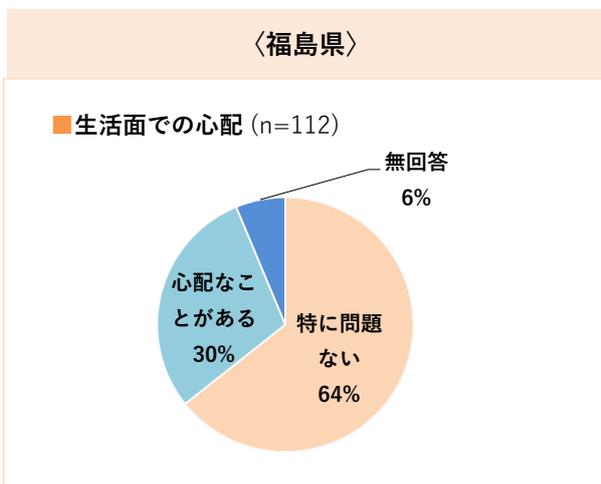


- 疲れやすい〔25・女性・山梨〕
- 時々、手がふるえて力が入らなくなる時がある〔28・女性・茨城〕
- ◆ 大汗をかく。疲れやすい。寝てばかりいる。本人は気付かないことが多い〔21・女性・宮城/母〕
- 心療内科にも通院しており、心の健康を保てるか心配〔26・女性・埼玉〕
- ◆ 本人は「健康面は特に問題ない」と回答しているが、親から見ると、とても疲れやすいと感じる。学校ではよくがんばって、まわりの子たちと何ら変わりなく過ごしているようだが、家へ帰るとグタッと疲れてしまい、寝てしまう〔15・男性・長野/母〕
- RI治療では取り切るのが難しそうな病巣が残っている〔23・女性・東京〕
- ◆ 肺に転移しているため、8回目のRI治療をすることに。病状が進まないよう祈りながら生活している〔21・男性・長野/母〕
- 引越しをしたが、転院のOKが出ず、片道1時間をかけて通院する。妊娠中なので長時間の運転となるとたいへん。また、出産も病院になるため、家族のフォローが必要になってしまうことが心配〔28・女性・群馬〕

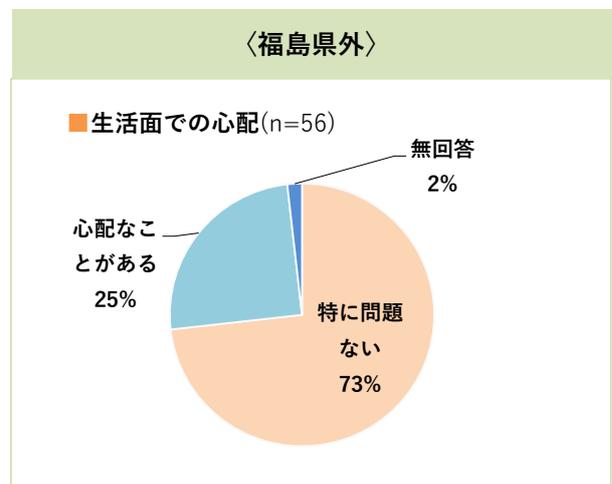
2) 生活面

生活面では「特に問題ない」との回答が、福島県、県外ともに60~70%を占めました。しかし、独立して生計を営む年齢に達した人は、医療費・通院費・保険の問題など、主に経済的な不安を抱えています。高校卒業後、進学や就職で地元を離れる人は、現在の居住地からの通院費は負担となっています。医療保険については、入りづらさや掛け金が割高という声が多く聞かれます。低年齢の子どもの保護者からは、告知の問題の悩みもあげられました。コロナ禍でのアンケートであったため、新型コロナの影響を受けたという回答も目立ちました。

健康面・生活面を通して、AYA世代である思春期、若年成人の当事者は、進学、就職、結婚、出産、子育てなど、さまざまな生活面の変化に直面しています。甲状腺がんを経験した人も、年齢・性別・症状などによって、抱える問題は異なります。年代に合わせた各分野の専門家のサポートの必要性が増しており、適切な社会の対応が求められています。



- 一人暮らしになり、経済的な面で常に不安 [26・女性・浜]
- 病院によく行くので出費が多い [27・女性・避]
- 手術後、コロナもあって仕事なくなり、アルバイトしている。将来不安 [23・男性・浜]
- 休みがちで給料面が心配 [26・女性・中]
- コロナもあり、収入が安定しない。今後、再発した場合、生活ができなくなるのが怖い (入院して仕事ができないと収入がないため) [26・女性・中]
- ◆現在は医療費が免除されているが、解除されれば、長期にわたる医療費や高額な治療費が心配 [18・男性・避/母]
- 医療保険を考えるようになったが、入れないか月々の料金が高額になると思うと加入できない [26・女性・中]
- ◆高1で半摘したため、手厚い保証のある生命保険に加入できない。国、県で一生の補償をしっかりとしてほしい [21・男性・中/母]



- 体調が悪くなって働けなくなると、収入が減ってしまうのではと心配 [29・女性・東京]
- 定期的な通院により、居住地、働ける時間が制限される [23・女性・東京]
- ◆就職後、ストレスがかかって、ホルモンバランスの変化等は大丈夫なのか。定期検診にきちんと通院できるのか [21・女性・宮城/母]
- 生命保険の加入ができない、または金額が高い [23・男性・茨城]
- 保険関係を見直してほしい。一言に「がん」でくくられてしまうと不利が大きいため [28・女性・神奈川]
- ◆娘には、がんだったことを伏せている。発病したのが小2と低学年だったため。今後、いつ、どのように伝えたらよいのか、私や夫にとって大きな課題。
おかげさまで元気に生活できていることが支え。病名を伝えるのは、まだ数年先になると思う。難しい。結婚や、就職のことまで考えると、気分が落ち込むこともある [13・女性・茨城/母]

2 自治体や政府、医療機関への要望

〈福島県〉甲状腺がん当事者のニーズが満たされていない現状へのもどかしさを訴える声が目立ち、支援の拡充や「手帳」作成を含む手続きの簡素化の要望が強くあります。また、「過剰診断論」への反発や批判と並んで、特に早期発見に有効な学校での検査継続を求める声は根強いものがあります。検査を受けていないために県のサポートを拒否された人もいることから、検査が縮小された場合には不利益を被る人が出てくるのが危惧されます。原発事故との因果関係を認めてほしいという声は、特に保護者から強く聞かれます。医療機関への要望は福島県・県外ともにあがっています。

〈福島県外〉県外では、甲状腺がん当事者への社会的理解を求める声、医療費など経済面での支援を求める声があがっています。原発事故後の公的な甲状腺検査や費用助成などはごく一部の市町村に限られ、その検査も縮小や終了したところがほとんどです。そのため、福島県外では、甲状腺検査を公的な健康診断に組み込むことを望む声、公的支援を望む声が圧倒的多数にのぼります。

〈福島県〉	〈福島県外〉
<p>支援への要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 当事者と対談する機会を設けてほしい〔21・男性・中〕 ● 支援制度の検討の場に当事者を加えること〔28・女性・中〕 ● 国も責任を認めて「手帳」を作り、健康不安への検査や相談、対応の窓口を明確にしてほしい。出産や再発の不安もあるので、生涯にわたって関連性のある健康被害への支援をしてほしい〔22・女性・避〕 ◆ 県立医大の治療代を窓口の段階で無料にしてほしい。後からの申請に手間がかかり、結局申請できていない〔22・男性・中/母〕 ● 原発事故との因果関係が不透明な以上、もっと支援があっていいと思う。精神的苦難が当時の自分には大きかった〔29・男性・避〕 ● 甲状腺がんになって不安を抱えている人へのしっかりとしたサポートを続けてほしい〔23・女性・避〕 ◆ これからを考えると不安なことがたくさんあり、国や県には一人ひとり丁寧に状況を確認してもらい、サポートをお願いしたい〔19・女性・中/父〕 ◆ 「県の支援は受けられない*」と言われた。親としてできることをするだけ〔27・女性・中/母〕 <ul style="list-style-type: none"> * 「県の甲状腺検査」を受診していないことを理由に適用外とされた ● 半年に一度、東京から福島への通院がずっと続く。交通費の負担が大きい〔27・女性・中〕 	<p>支援への要望・社会的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ● がんサバイバーも責任ある仕事ができるよう、雇用を増やしてほしいと思う。他の健康な人より疲れやすい以外は問題がないので、理解してくれる企業、人が増えたらいいと思う〔30・女性・埼玉〕 ● 手術のため仕事を休職していた期間があり、転職の際、正直に話したら「病気だった人」というレッテルを貼られ、不利になることがあった。事情があって働けなかった人たちが他の人たちと同じように就職活動できる制度を作してほしい〔25・女性・東京〕 ● 医療費免除になるとよいと思う〔29・男性・静岡〕 ● 進行が遅いとはいえ、定期的に診断を受けないといけないのがストレス。若い世代でがんと診断されたら、メンタル面や金銭面でも援助してほしい〔28・男性・埼玉〕 ● 甲状腺がんに限らず、支援制度の周知に注力してほしい。……さまざまな助けも、知らなければまったく受けられない。本当に支援を必要としている人の生活を守れないと思う〔27・男性・東京〕 ● 国や行政からのサポートはゼロなので、このまま何もなしになるのだと思う〔23・男性・茨城〕 ◆ 国や県へは、手術後の通院（傷あとの治療なども含めて）まで支援してもらいたい〔14・女性・茨城/母〕

〈福島県〉

甲状腺検査への要望

- 初期の段階でがんの治療ができるよう、今後も学校などで検査を継続してほしい〔26・女性・中〕
- 甲状腺がんは、長い年月の見守りが必要だと思うので、これからも検査は続けてほしい〔23・男性・浜〕
- ◆ 早期発見、早期治療のために甲状腺検査を継続してもらいたい〔27・女性・中/母〕
- 20歳以上の人々の検査があまり見られない。増やすと良いと思う〔21・男性・避〕
- 地元から離れた対象者にも検査を受けやすい形であればと思う〔25・女性・中〕
- 検査を受けていない友だちが多い。私も高校生の時に検査して以降一度も検査に行っていなかった。ちゃんと検査を受けていれば、もっと早く発見できたのかな……と思う。自分は大丈夫と思わずにみんな検査を受けてほしい!!〔24・女性・浜〕

社会的理解や因果関係など

- 甲状腺を取った後は体調面の変化がかなりあるのだが、外見から見るとわからず理解を得にくい。首の創傷だけでなく、体力や心身に影響を及ぼしているということへの理解を広めることも必要〔25・女性・中〕
- 原発事故との関係を明らかにしてほしい〔26・女性・中〕
- 「手術をした方が良い」と言われ半摘出したが、「過剰診断」などとも言われ、本当に手術を受けてよかったのかと今も疑問が残る。この2つの言葉に矛盾があることにみな気付いていると思うし、心外だ。国等からはっきりとした答えが出ることを望んでいる〔28・女性・中〕
- ◆ 原発事故と甲状腺がんの因果関係を国に認めてほしい〔22・男性・中/母〕
- ◆ 国に「甲状腺がんは原発が原因」だということを認めてもらいたい〔27・女性・中/母〕
- ◆ 福島第一原子力発電所の放射能汚染の事故との関連を国に認めてもらいたい。苦しんでいるのは子どもたち〔18・男性・避/母〕
- ◆ 放射線被ばくの影響評価が必要と思う。今後も、長期にわたる継続した調査・検討を実施して、評価結果を示してほしい〔28・男性・中/父〕

〈福島県外〉

甲状腺検査への要望

- 何の前ぶれもなく発症しているので、学校や企業の定期検診に組み込んで良いと思う〔26・女性・埼玉〕
- 健康診断の際、35歳以下はがんの検診がないので、低リスクといえどもするべきと考える〔27・男性・東京〕
- 健康診断の項目として甲状腺検査をした方がよいと思う〔25・女性・山梨〕
- 国の「女性が健診」のように、甲状腺の検診も早期発見できるような仕組みがあるといいなあと思う〔29・女性・東京〕
- ◆ 子どもが甲状腺がん罹患したことについて、行政は、把握・追跡もせず、成人してから先も長く定期検診に通院し、不安をもって生活していくことになる。甲状腺がんの発症から10年、20年、罹患者が増加していないか、治療はどのようなものが多いのか、国・市町村・県が把握し、追跡、開示してもらいたい。現状は個人の疾患の扱いで、対応しているのは福島県のみ。県境に壁はないはずなのに!〔21・女性・宮城/母〕

因果関係など

- ◆ 福島第一原発事故の影響調査を広範囲でもしてもらいたい。特に、セシウムの残量調査をしてもらいたい〔29・男性・新潟/父〕
- ◆ 原発事故から11年経過していることから、「甲状腺がんの全数調査」をしてほしい。2011年以降の小児（現在30歳以下）を対象に、診断された年齢・治療内容・予後・所在地（変遷も含む）の調査、これを国でやってもらいたい。「2030年に実施します」でも構わないので〔16・女性・茨城/父〕
- ◆ 今後、国は検査を縮小していくのではないかと危惧している。また関東では、行政での検査はなく、この先体制を整えるとも思えない。時間とともに風化してしまうのが何よりも気がかりだ。福島だけでなく、関東でも大きな影響があったことを忘れないでほしい。今住んでいる市では、子ども医療費は中学3年までで、来年からは3割負担。娘が、年2回の検査や先の不安を一生抱えていくのを考えると辛い。せめて検査に対する支援は国や県にしてほしい〔15・女性・埼玉/母〕

◆ まとめ—当事者の声から見えること

甲状腺がんは、生存率のみに着目して「予後の良いがん」であると言われてますが、原発事故後、甲状腺がんを経験した子ども、若者、家族の状況や思いはさまざまで、他の人にはわかりにくい辛さや、将来への不安を抱えている人が少なくありません。

福島県と県外とでは、病気そのものに関しては共通する課題が多く見られますが、行政による継続的検査実施や医療費支援の有無に関連して、県外の回答者から国に対する支援の要望が目立ちます。当事者は、甲状腺がんという病気そのものへの社会的理解を求めていますし、検査や調査研究の継続も強く求めています。

若いがん経験者への支援は、厚労省をはじめ社会が取り組むべき課題ですが、十分な支援ができていないととても言い難い状況です。当事者の声にていねいに耳を傾け、不安や苦悩に対処するための具体的な支援が、国や自治体、一般社会に求められています。

① がん罹患者の「男性比率」が高い福島県—必要な分析なされないまま

通常の甲状腺がんの男女比「1：3～5」と比べ、福島県では男女比が「1：1.2」と小さく、特に男性は低年齢での比率が高くなっています。チェルノブイリ事故後も、男性の比率が上がるのが特徴的と言われました。福島県の検討委員会でも、男女比がチェルノブイリ事故後と似ている原因を調べることは課題とされましたが、その後、分析は行われていません。

② 県外は約半数が「甲状腺全摘出」

行政による定期的な「甲状腺検査」が行われている福島県では、「半葉摘出」の割合が80%以上ですが、県外では「半葉摘出」と「全摘出」との割合が同率でした。

再手術の割合は、福島県が県外より少し高いものの、「RI治療」を受ける人の割合は、福島県14%、県外36%、「RI治療複数回」の人は福島県2%、県外21%と大きな差が出ています。

「RI治療」は、治療とはいえ、内部被ばくを伴う過酷な治療法であるため、「RI治療」まで進行する症例割合を抑えることは、本人ばかりか、社会にとっても非常に大きなメリットです。

福島県では「早期発見・早期治療」が行われており、県民健康調査の大きな成果と言えます。

③ 体調不良、再発・転移の不安—約4割が健康状態を心配

「体調、健康面に心配がある」との回答は、福島県、県外ともに約4割。主な訴えは、「日々の体調不良」から「再発・転移の不安」「妊娠・出産への心配」「メンタル面の不調」となっています。福島県では、術後の食事の「ヨウ素制限」を受ける人があり、食事制限か甲状腺ホルモン剤服用か、どちらを選ぶかの悩みも少なくありません。

④ ひとり立ちの年齢で抱える経済面の不安

約3割の人が生活面での心配事を記載しており、内容は、福島県、県外で「医療費の補助の要望」以外は大きな違いはありません。20代が増え、独立して生計を営む中で、術後の通院と勤務の兼ね合いの苦労のほか、治療費や通院費、保険の入りづらさなど、経済的な不安の声が多く聞かれます。また、甲状腺がんという病気そのものをもっと知ってほしいという、社会的理解の広がりを求める声も聞かれます。

⑤ 福島県と県外で異なる自治体への要望

〈福島県〉「過剰診断主張」からのストレス/検査継続の要望

福島県では、公的な「甲状腺検査」が行われているものの、検討委員会では、見つかった甲状腺がんが「過剰診断による」という主張がなされていることで、当事者に反発や不安などストレスを引き起こしています。当事者の意見には、自分たちの状況や要望が県や国に届いていないことへのもどかしさが表れています。

検討委員会で「学校での甲状腺検査」の実質的な縮小を求める意見が出ていますが、本人およびその保護者は、学校での検査が「早期発見・早期治療」に繋がることから、その継続を求めていることが、前回アンケート（2021年）と同様、確認されました。

また、原発事故と甲状腺がんについて、因果関係を認めてほしいという強い意見が保護者からあがっています。

〈福島県外〉検査の整備、実態調査を望む声

福島県外では、甲状腺がん患者への社会的な理解が広がること、医療費の支援が求められています。大規模で継続的な検査が行われていないため、「甲状腺検査」を通常健康診断に組み入れるなど検査整備、福島県以外の甲状腺がんの実態調査、因果関係に関する調査の要望があげられています。

* * *

◇回答者の現状

本アンケートでは、現在の状況についても質問しました。

健康面や生活面で「特に問題ない」と答えた方からも回答をいただいています。

II 福島県版・21 ページ、III 福島県外版・36 ページをご覧ください。

「手のひらサポート」アンケート

—甲状腺がん当事者の声 2022

II 福島県版

1 当事者の状況15

■ 性別・現在の年齢

1) 健康状態

■ 診断・手術・RI 治療の状況

■ 現在の体調

● 健康面で心配なこと

体調不良（精神面も含む）/再発・転移/治療・将来の健康/
妊娠・出産/食事制限/薬の服用/通院

● 体調が悪い

2) 生活面

■ 現在の状況

● 生活面で心配なこと

経済面（医療費・就労）/保険

* 現在の生活状況について

2 自治体や政府への要望22

1) 支援についての要望

当事者の意見聴取/手続きの簡易化・「手帳」交付/
継続・整備・周知/経済面（医療・通院費）

2) 検査への要望

検査の継続/検査機会の拡充・提案

3) 社会的理解と周知

4) 因果関係ほか

3 医療機関への要望27

他病院での受診・病院間の連携ほか/専門病院による診察
精神面のサポート

* 「手のひらサポート」へのメッセージ

「手のひらサポート」アンケート

—甲状腺がん当事者の声 2022

〈福島県〉

■調査要項

NPO 法人 3・11 甲状腺がん子ども基金「手のひらサポート」は、甲状腺がんと診断された人へ、療養費 10 万円を給付してきました。2022 年 8 月より、この額を 5 万円増額し、すでに給付を受けた人にも遡及給付することとしました。本報告は、その際のアンケート結果です。

調査実施者 : NPO 法人 3・11 甲状腺がん子ども基金

対象者 : 当基金療養費給付事業「手のひらサポート」受給者

(福島原発事故当時 18 歳以下で福島県に居住、事故後甲状腺がんと診断された人)

調査実施期間 : 2022 年 7 月 11 日～10 月 25 日

実施方法 : 郵送

回収率 : 112 人/129 人 (86.8%)

回答者 : 女性 62 人、男性 50 人

(本人 69 人、保護者 43 人)

事故当時の年齢 : 3 歳～18 歳

■事故当時の居住地

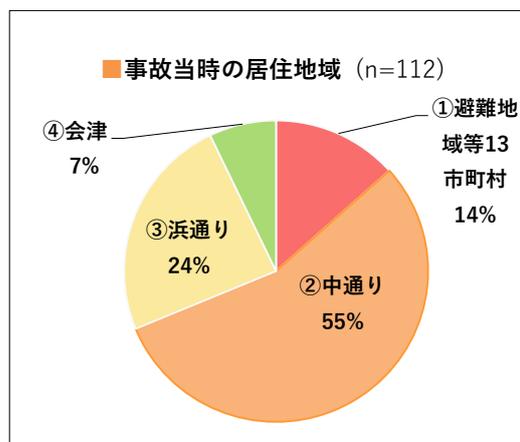
①避難地域等 13 市町村 15 人(14%)

②中通り 62 人(55%)

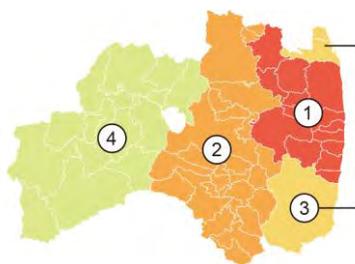
③浜通り 27 人(24%)

④会津 8 人(7%)

* 地域区分は「県民健康調査」に準じた



【県民調査地域区分】



①国が指定した避難地域等 13 市町村: 川俣町・浪江町・飯館村・南相馬市・伊達市・田村市・広野町・楡葉町・富岡町・川内村・大熊町・双葉町・葛尾村

②中通り: 福島市・二本松市・本宮市・大玉村・郡山市・桑折町・国見町・天栄村・白河市・西郷村・泉崎村・三春町・須賀川市・鏡石町・中島村・矢吹町・棚倉町・矢祭町・埴町・鮫川村・石川町・玉川村・平田村・浅川町・古殿町・小野町

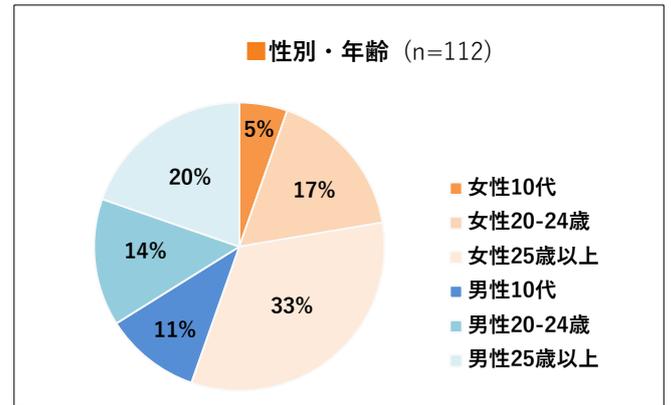
③浜通り: いわき市・相馬市・新地町

④会津地方: 桜枝岐村・南会津町・金山町・昭和村・三島町・下郷町・喜多方市・西会津町・只見町・猪苗代町・磐梯町・北塩原村・会津美里町・会津坂下町・柳津町・会津若松市・湯川村

1 当事者の状況

■性別・現在の年齢

女性：62人（55%）	
10代	6人（5%）
20-24歳	19人（17%）
25歳以上	37人（33%）
男性：50人（45%）	
10代	12人（11%）
20-24歳	16人（14%）
25歳以上	22人（20%）

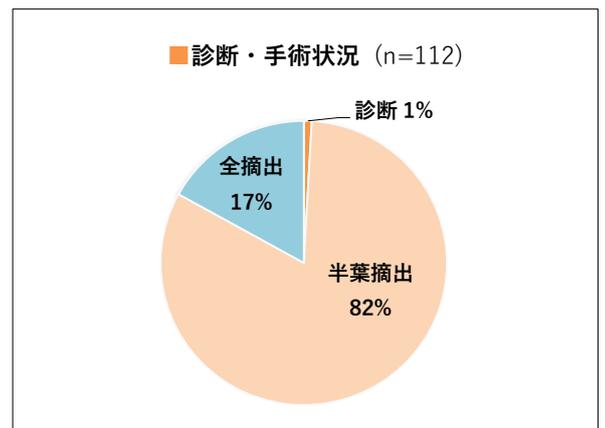


事故から10年以上が過ぎ、多くの方は20代になっていますが、事故当時10歳未満で現在10代の方も16%を占めます。散発性に発生する甲状腺がんは、特に思春期以降、男性に比べ女性が3～5倍と大きな差が出てくるがんです。基金申請者に限らず、福島県ではチェルノブイリ事故後の状況と同様男女比が小さいこと、男性の方が低年齢の比率が高いことが特徴です。

1) 健康状態

■診断・手術・RI治療の状況

・診断*（未手術）	1人（1%）
・半葉摘出	92人（82%）
・全摘出	19人（17%）
*診断：がんと診断され、まだ手術をしていない人	
・再手術	22人（20%）
・RI治療	16人（14%）
（RI治療複数回）	2人（2%）

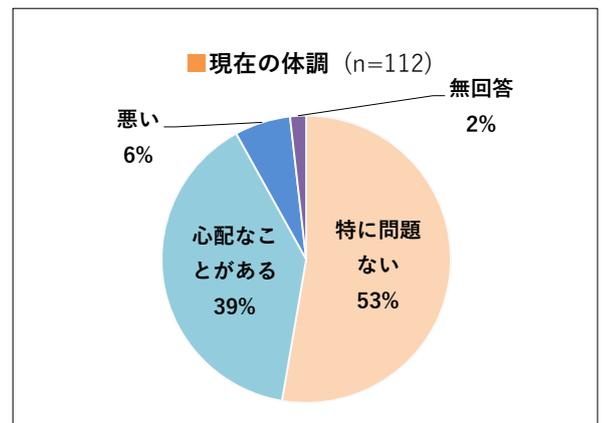


定期的に「甲状腺検査」が行われている福島県では、早期発見ができており、甲状腺「半葉摘出」が80%以上を占めます。一方で、「再手術」の人がやや増加していることは、心配のひとつです。

■現在の体調

①特に問題ない	59人（53%）
②心配なことがある	44人（39%）
③悪い	7人（6%）
・無回答	2人（2%）

②、③と回答した人に具体的な状況をたずねました。



5割以上が現在の体調に問題がないと回答していますが、明確に「体調が悪い」との訴えのほか、疲れやすさやメンタル面への影響、再発・転移の不安など4割の方は具体的な心配事を訴えていました。

健康面で心配なこと

現在の心配としては、疲れやすさ、体調不良、またメンタル面の不調を訴える声も少なからずあり、明確に体調が悪い人もいます。今後の心配として、「再発・転移」「妊娠・出産」を含め、健康面での漠然とした不安もうかがえます。福島県では、甲状腺半葉摘出後、食事中のヨウ素制限を受ける場合があります、その辛さを訴える声もあります。

体調不良（精神面も含む）

- 夜勤勤務が続くと体調不良になる。体力は以前より落ちたと感じる〔25・女性・中〕
- 昨年手術。倦怠感、ときどき傷が痛む〔20・女性・浜〕
- 疲れやすい。将来が不安〔26・女性・中〕
- ホルモンバランスの影響か、気持ちが上がらない日々もあるが、だんだんとセルフコントロールできるようになった〔29・男性・浜〕
- すごく健康かという微妙。疲れやすい。鉄分不足でもあるが、どの体調不良も甲状腺の症状と似ているため、本当に問題がないのかわからない〔28・女性・浜〕
- 約2年前から点状出血の症状があり、病院にも通ったが原因がわからず、ずっと治らない〔25・女性・中〕
- 右眼が開きにくい〔21・女性・中〕
- 薬を飲み忘れると、体調が悪く（倦怠感、ネガティブ）になってしまう〔28・女性・中〕
- 術後から現在に至るまで、精神的に病んでしまうことが定期的にある。手術が影響しているのか、少し心配〔24・男性・中〕
- メンタル面〔25・女性・中〕
- 無職で鬱の自宅療養中〔22・女性・避〕
- 髪が多く抜ける気がする。子どもや夫と比べて暑さを感じず、汗もかきにくくなったと感じる〔28・女性・中〕
- ◆以前は人一倍毛髪が多かったが、抜け毛がひどく、数年前から薄くなったように思う。本人も気にしている。手術したことと関係あるか気になる。まだ主治医と話すことができていない〔19・女性・中/母〕
- ◆体力がなく学校から帰ってくると夕食を食べずに眠っている〔16・男性・浜/母〕
- ◆疲れやすい。甲状腺の切除と関係があるのか心配〔18・男性・中/母〕
- ◆体調、体が弱くなり、風邪をひいたり、免疫力が下がっていること〔24・男性・中/母〕
- ◆疲れやすい。同年代の子に比べて体力がないように思うことがある〔18・女性・中/母〕
- ◆倦怠感、手の震えがある〔19・女性・中/父〕
- ◆持病に伴う腎臓の疾病が確認されており、CT 観察から経時的に増大しているため、今後の経過が心配〔28・男性・中/父〕
- ◆手術後、3か月に一度、採血、検査、薬を服用。昨年あたりから精神的に不安定で、そちらの病院にも通院し、いろいろな薬を飲んでいる。そのうち甲状腺の薬は3種類。ずっと飲み続けなければならない。起きてしまったことを振り返っても仕方ないと思いつつも、検査のたび不安になる〔31・女性・中/母〕

再発・転移

- 再発しているので心配は尽きない。転移しているのではないかと、この先出産できるのか、あと何年生きられるのか、といつも考えている〔26・女性・中〕

- 体のどこが悪いというわけではないが、同年代の人の再発を聞くと心配になる〔25・男性・中〕
- 幸いなことに、今は体も元気で仕事をする事ができているが、無理をしていつ再発するかわからない状態であることは、常に気がかり〔25・男性・中〕
- 体調不良が続いたため、一時期チラーゼンを服用していた。再発や転移等の心配がある〔26・女性・中〕
- 転移がないか心配〔25・女性・浜〕
- ◆体調には問題ないが、再発しないか不安がある〔24・女性・中/母〕
- ◆年1回の検診になったが、再発しないか不安〔21・男性・中/母〕
- ◆転移が心配〔15・女性・中/母〕
- ◆半摘しているので、リンパからもう半葉ががんになってしまったら、体温の調整ができず薬を一生飲むことになること〔24・男性・中/母〕
- ◆現在チラーゼン（50 mg）3錠内服。経過も良好だが、内服を続けないと再発のリスクが高いと言われている。再発の心配は常にある〔16・男性・中/母〕

治療・将来の健康

- 甲状腺、婦人科、内科と通院が多くて、今後が不安〔27・女性・避〕
- RI治療が必要になるかどうか〔24・女性・浜〕
- チラーゼンの服用により現在は安定しているが、将来がやや心配〔27・男性・浜〕
- 今後、今までどおり、健康でいられるのか〔24・男性・中〕
- 難病を発症しているため、影響がないか心配〔28・女性・避〕
- ◆再々手術の可能性がある〔24・女性・中/母〕
- ◆問題はないが、半年に1度通院しており、毎回不安はある〔22・女性・浜/母〕
- ◆将来的にどう変化していくのか心配〔22・男性・中/母〕
- ◆半年に1度、県立医大で受診。片方摘出し、もう片方もいつ摘出することになるかと受診するたびドキドキしてしまい、常に不安がつきまとう。前回リンパの腫れが少し見られ、次回の検査がとても心配。毎回痛い血液検査を「もう慣れた」と言うが、「痛いだろうに」とかわいそうに思う。受診は大切だが、遠い医大へ通い一日つぶれてしまい、仕事も学校も休まなければならない。一生不安もついてくると思う〔18・女性・中/母〕
- ◆腫瘍マーカー値が少し上昇し、アイソトープ治療を検討中〔16・女性・浜/母〕

妊娠・出産

- 現在の体調には問題はないが、年齢的に結婚や出産を考えるようになり、がんになって薬を飲み続けている私でも、健康に赤ちゃんを産めるのか心配になり、将来を考えると不安〔26・女性・中〕
- 妊娠・出産できるか、健康な子が産めるか。医者からは検査していれば大丈夫だとは言われているが、心配な部分がある〔27・女性・中〕
- 将来妊娠したとき、無事に子どもが生まれてくるか心配な気持ちがある〔23・女性・避〕
- 将来的に子どもができたら、がんが子どもに遺伝しないか心配〔25・男性・中〕
- 妊活を機に TSH 値が高かったため、チラーゼンを服用するようになった。今後、いつまで服用が続くのか心配〔28・女性・中〕
- 自分が今後、子どもを産む機会があるとしたら、食事制限ではなく、薬を飲むようになるという聞いて不安が大きい〔28・女性・中〕

- 妊娠した時、近所の産婦人科で対応してもらえるか（チラーヂン服用のため）〔24・女性・浜〕
- ◆妊娠、出産に関して不安がある〔28・女性・中/母〕
- ◆3か月に1回薬をもらいに通院、6ヶ月に1回検査。飲み続ける薬への不安、この後、転移しないか、出産への不安はある〔24・女性・浜/母〕

食事制限

- 食事制限がけっこうたいへん〔28・男性・避〕
- 半摘後、甲状腺ホルモンが安定せず、食事療法をしている。好きなものが食べられず辛い。良くなる日が来るのか、検査のたびに落ち込む〔25・女性・避〕
- 手術をした後からずっとヨウ素制限を続けており、ワカメや昆布などヨウ素が高いものは食べられない。ずっと続くのかと不安。薬を飲めばよいのだが、一生続けなければならぬかと思うと、なかなか決断ができない〔25・男性・中〕
- 年に2回検査しているが、なかなか数値が下がらず食事制限を続けている。いつになったら終わるのか……。薬を飲めばよいかもしれないが、“一生”となるのも嫌……。前のようになんでも食べられる生活に戻るよう、がんばりたい〔28・女性・中〕
- ヨウ素を含む食べ物を食べた時の体調面〔29・女性・避〕
- ヨウ素をしっかりと制限できているか不安な時がある〔27・女性・中〕
- ◆今後、大学進学で一人暮らしになった際に、食事（ヨウ素）制限を、ちゃんとできるのか心配〔17・男性・浜/母〕
- ◆食べ物に制限があり、ストレスになっている〔19・女性・中/父〕

薬の服用

- 今後一生毎日薬を飲まなければいけないことが不安〔28・女性・中〕
- ◆甲状腺を全摘したことから、毎日、薬を服用（4錠/日）しているが、同時に持病のための薬も服用（12錠/日）しているため、薬の過剰摂取による副作用が心配である〔28・男性・中/父〕

通院

- 転職直後のタイミングで福島に帰れず、経過観察のための県立医大への通院ができなかった。それから2年ほど受診していないため、今の状態が気になってはいる〔27・女性・中〕
- 今後の通院について不安がある。転勤のたびに通院先を変え、そのたびにかかる金額や時間は負担。私は半永久的（生きている間ずっと）にチラーヂンの処方が必要と言われている。今後ずっとこれが続くのか…と思うと、ふと辛くなる時がある。通院支援制度があればいいなと思う〔28・女性・浜〕
- ◆社会人となり、仕事が忙しく病院に行けていないようだ〔28・男性・浜/母〕

体調が悪い

- 睡眠障害、食欲不振、気分障害、抑うつ症〔27・男性・中〕
- 精神面から体調を崩し、去年8月頃から病院通い。適応障害（育児ノイローゼ）と診断された。完治はしていないが、通院をやめてしまった〔30・女性・浜〕
- 体のだるさ、疲れやすくなった。首まわりのしびれ〔28・女性・中〕
- 体がだるい、眠い、目がまわる、やる気の低下、などの状態が続いていて、学校へ行くのがたいへん〔17・女性・避〕

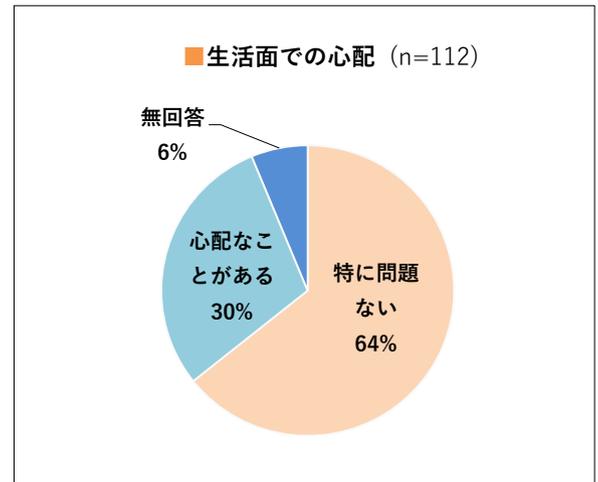
- ◆サイログロブリンの値が高い。ヘルニアが悪化し、状態によっては手術をするかもしれない〔27・女性・中/母〕
- ◆人一倍疲れやすい。精神的に弱くなるといろいろと体調をくずす（年に数回）〔27・男性・浜/母〕
- ◆甲状腺を全摘し体調が悪く、普通校に通えなくなった。現在通信制の高校に入っているが、そこも行けていない。アイソトープ治療をしたが、転移したがん細胞がまだ残っているため、再度アイソトープ治療をする。本人は精神的にも辛そう〔18・男性・避/母〕

2) 生活面

■現在の状況

- | | |
|-----------|----------|
| ①特に問題ない | 72人（64%） |
| ②心配なことがある | 33人（30%） |
| ・無回答 | 7人（6%） |
- ②と回答した人に具体的な状況をたずねました。

「特に問題ない」が半数以上であったことは安心材料ではありますが、独立して生計を営む年齢に達した人は、医療費・通院費など、主に経済的な不安を訴える人が増えています。



●生活面で心配なこと

コロナ禍でのアンケートであったことから、通院、収入、就労など、さまざまな形でコロナの影響を受けたことがわかります。福島への通院のある人は、地元を離れた後の通院費用だけでなく、職場を休まざるを得ないなどで支障を感じており、近隣で受診できるよう、医療機関の連携を要望する声は継続する問題でもあり切実です。

また、医療保険の入りづらさ（審査、掛け金など）を訴える声は多くあげられています。

●経済面（医療費・就労）

- 一人暮らしになり、経済的な面で常に不安〔26・女性・浜〕
- 病院によく行くので出費が多い〔27・女性・避〕
- 収入が無く金欠〔27・男性・中〕
- パートで働き始めたのに、子どもたちにかかる費用が多く、金銭面に余裕が生まれない〔30・女性・浜〕
- 仕事が安定しなくなり収入が得られず、物価も高騰、自治体も現時点では何もしてくれないので、行く先が不安〔28・女性・中〕
- 休みがちで給料面が心配〔26・女性・中〕
- 夜勤勤務が体の負担になってきたため、転職を考えている〔25・女性・中〕
- 現在は体調を考慮し、定時で帰れる事務の仕事に転職。〔26・女性・中〕
- 転職について、なかなか考えがまとまらないこと〔25・女性・中〕
- コロナによる給料減にて不安定な時があった〔27・女性・中〕

- コロナもあり、収入が安定しない。今後、再発した場合、生活ができなくなるのが怖い（入院して仕事ができないと収入がないため）〔26・女性・中〕
- 就職先がコロナウイルスの影響により人手不足となり、労働環境が悪化。体調を崩し現在在宅療養中〔27・男性・中〕
- 手術後、コロナもあって仕事がなくなり、アルバイトをしている。将来が不安……〔23・男性・浜〕
- この体調で働き続けられるのか〔28・女性・中〕
- ◆ 子ども医療費受給資格がなくなったあと、一生内服しなければいけない薬代、診察、検査代がかかり、大人になってからの本人の負担が大きいのではと心配している〔16・男性・中/母〕
- ◆ 現在は医療費が免除されているが、解除されれば長期にわたる医療費や高額な治療費が心配〔18・男性・避/母〕
- ◆ 今は毎月3か所の病院に通院。東京の病院へは、コロナのため、2年ほど行けていない。今年は階段から落ちて入院し、骨折で通院した。自立できていないので、私たち親がいなくなってからのことが心配〔31・女性・中/母〕
- ◆ 病気の事で、転職時など不利な点がないか〔22・男性・中/母〕
- ◆ アルバイトしているが、短期的な通院（3か月に1度）のため、正規の仕事につきづらい。収入が低く、将来的な経済面が心配〔27・女性・中/母〕
- ◆ 勤務先の経営者が病気に対する知識があり、何とか勤務できているが、これまではこの病気を告げると解雇されていたので、今後も同じことが起きるのではと不安はある〔27・男性・浜/母〕
- ◆ 専門学校を卒業し、4月から就職。検査は半年に1度のペースだが、数値が良くない時は、その間に検査があるので、会社を休まなければならない、本人は困っているようす〔20・女性・浜/母〕
- ◆ 手術のため仕事をやめ就活中。薬を一生飲まなくてはいけないので金銭的、経済的に心配〔28・男性・中/母〕
- ◆ 現在、奨学金を借りて大学へ通学しているので、将来、身体的に健康に働いて返済できるのか不安〔18・男性・中/母〕

保険

- 医療保険を考えるようになったが、入れないか月々の料金が高額になると思うと加入できないでいる〔26・女性・中〕
- ◆ どの保険に入れるかわからず不安（学資保険終了したため）。他の人はどんな保険に入っているか知りたい〔18・女性・中/母〕
- ◆ 生命保険に加入できていない〔26・男性・浜/母〕
- ◆ 高1で半摘したため、手厚い保証のある生命保険に加入できない。国、県で一生涯の補償をしっかりとしてほしい〔21・男性・中/母〕
- ◆ 手術から9年経過。通常なら完治となるが、毎年通院の指示が出るため、がん保険に加入させたいが、「告知」に該当し加入しづらい。一度がんになると甲状腺以外のがんのリスクも上がるのではないかと不安。〔28・女性・中/母〕

*現在の生活状況について

本アンケートでは、現在の状況についても質問しました。

健康面や生活面で特に問題ないと答えた方からも回答をいただいています。(一部紹介)

現在の生活状況

- 2人の女の子を子育て中です〔28・女性・浜〕
- 結婚し、1歳半の子どもがいます。産休をあけて、職場復帰をし、パートで働き、現在2人目を妊娠中〔24・女性・浜〕
- 昨年夏に結婚。心配なことがあるとすれば、今後も病気とつきあっていかなければならないことです〔28・女性・浜〕
- 昨年結婚し、同じ市内に転居。環境の変化に多少の不安もありましたが、現在は地元の病院に3か月に一度のペースで通院、薬の量も以前と変わらず、年に一度エコー、血液検査を半年に一度行い、いずれも問題なく、健康を維持できています〔29・女性・中〕
- 1年ほど前に転職し、今の会社には病気のことを伏せて働いています。通院も半年に1回くらいのため、そこまで生活の不自由は感じていません〔25・女性・中〕
- 1人暮らしを始め、美容師を続けています。後輩も増え仕事に励んでいます〔28・女性・中〕
- 就職し、特に問題なく生活できている。理解ある職場で、半年に1回の通院も、休みをとって通えている。1日1回のチラーヂン服用もまったく苦ではない。首元の手術痕は少し残ってはいるものの、特に気にしていない〔24・女性・中〕
- 大学卒業後、就職。チラーヂンを一生飲み続けます。術後、体重がかなり増加したが、チラーヂン服用で元の体重に戻りました〔27・女性・中〕
- 就職。社会人3年目となり、現在は半年に1度通院。一生涯ホルモン剤を服用しなければならず、数値の管理のため、血液検査を毎回行っている状況〔25・男性・避〕
- ◆ 就職。今のところ年1回の定期受診のみで問題ないようです〔22・女性・会/母〕
- ◆ 実家に戻り農業をしています〔25・男性・中/母〕
- ◆ 今のところ、健康面では問題なく生活している〔21・男性・中/母〕
- ◆ 大学3年生。このまま何もなく、普通に元気に生活して行ければ良いと願っています〔20・女性・浜/母〕
- ◆ 高校2年になりサッカーをしています。毎日元気に過ごしています。少し疲れやすいです〔16・男性・中/母〕
- ◆ 今のところ、体調も良く元気に通学。大学進学に向けて勉強に力を入れています〔17・男性・中/母〕

2 自治体や政府への要望

若い年齢でがんと診断された本人および家族のショックは計り知れません。それはその後の生活に大きく影響し、進路の変更や挫折感など、辛い経験を強いられてきた人もいます。その経験を踏まえて、甲状腺がん患者へどのような支援が必要か、今後の検査への具体的な要望等をうかがいました。

支援については、県に思いを直接訴えたい人もいます。県の「甲状腺検査サポート事業」は、事業の周知と継続、利用しやすい仕組みへの改善や通院費など支援内容の拡充が強く望まれています。中には、県からサポートを拒否された人もいることは、信じ難いことです。

甲状腺検査については、早期発見に繋がる学校での検査の継続、20歳以上の検査機会や頻度の拡充が望まれています。

さらに、甲状腺がんに対する社会的理解が広がることへの希望、医療機関に対する要望のほか、特に保護者からは原発事故と甲状腺がんとの因果関係を認めてほしいとの強い意見も聞かれました。

これだけ多くの要望があることを、福島県および政府に理解していただき、甲状腺がん患者への支援拡充が図られるよう、当基金としても強く要望します。

1) 支援についての要望

当事者の意見聴取

- 当事者と対談する機会を設けてほしい〔21・男性・中〕
- 支援制度の検討の場に当事者を加えること〔28・女性・中〕

手続きの簡易化・「手帳」の交付

- 病院の費用や交通費申請など手間がかかる。簡易化をした方がよい〔23・女性・避〕
- 国も責任を認めて「手帳」を作り、健康不安への検査や相談、対応の窓口を明確にしてほしい。出産や再発の不安もあるので、生涯にわたって関連性のある健康被害への支援をしてほしい〔22・女性・避〕
- ◆現在、医療費は無料だが、申請の手続きが複雑〔27・女性・中/母〕
- ◆県立医大の治療代を窓口の段階で無料にしてほしい。後からの申請に手間がかかり、結局申請できていない〔22・男性・中/母〕
- ◆治療費を県に請求する際、窓口で「甲状腺がんの治療証明」をすれば申請書類を提出しなくてもいいようになればと思う〔25・男性・中/母〕
- ◆「甲状腺無料保険証」を作って医療費を無料にしてほしい。手術代、薬代、通院など3割の医療費は負担。今後が心配〔28・男性・中/母〕
- ◆「手帳」を作り、医療費を生涯無料にしてもらいたい〔27・女性・中/母〕
- ◆「手帳」等を作り、医療費の窓口支払いがなくなる制度〔24・女性・中/母〕

継続・整備・周知

- 「甲状腺検査サポート事業」はぜひ続けてほしい〔25・女性・中〕
- 支援はより充実させるべき〔27・男性・浜〕
- いまだに定職に就くことができず、経済的に厳しい。国や福島県には支援制度をこれからも続けてもらい、少しでも多くの人を助けてもらいたい〔25・男性・中〕
- 3か月に1度の受診だが、若くしてがんになったので、一生病院に通うかと思うと嫌になる。手術後の支援制度も手厚くしてもらえると助かる〔27・女性・避〕

- 支援制度はずっと望んでいる。全摘して通院も薬もこの先一生なので、詳しいことが証明されていないとしても、何かしらの支援がほしい〔26・女性・中〕
- 原発事故との因果関係が不透明な以上、もっと支援があっていいと思う。精神的苦難が当時の自分には大きかった〔29・男性・避〕
- 国には、甲状腺がんになった人に支援や補償を求める。メンタル面のケアも全然不十分だと思う〔17・女性・避〕
- 甲状腺がんになって不安を抱えている人へのしっかりとしたサポートを続けてほしい〔23・女性・避〕
- 甲状腺がんや他のがんで、苦労している人が多いと思う。支援制度をもっと良くしたほうがいい〔24・男性・会〕
- 「手のひらサポート」のような支援があることを困っている人たちに知ってもらいたい。私自身、給付金をもらってたいへん助かっている。支援があれば気軽に検査、通院できるのではないかと思う〔26・女性・浜〕
- ◆ 通院や健康相談など、もっと国が支援するべきではないか〔19・女性・中/母〕
- ◆ これからを考えると不安なことがたくさんあり、国や県には一人ひとり丁寧に状況を確認してもらい、サポートをお願いしたい〔19・女性・中/父〕
- ◆ 本人も家族も、この病気について考えることも苦しく、できるだけ考えないようにしている。本人、家族の心身についても、補償と手厚いケアが必要。今でも考えると苦しく、本人にもこの話はできるだけしないように気を使っている〔21・男性・中/母〕
- ◆ 生涯を通して検査や支援を保障してもらえたら安心できる。福島県の現状を多くの人に知ってほしい〔17・男性・浜/母〕
- ◆ 甲状腺がんになった子どもたちの生涯を忘れることなく支援してもらいたい。また、甲状腺がんになっていない子どもたちも、定期的に検査をし、見守ってほしい。「あの時（2011年3月11日）福島県にさえ住んでいなければ、こんなことには……」と故郷を恨むようなことが、どうかないようにしてほしい〔17・男性・中/母〕
- ◆ 高校は手術のため行くことができず、中退してしまい、その後就職。甲状腺がんになって手術したこと。それは一人ひとりの人生を狂わせ、一生の夢を奪った。親が生きていれば見守ることはできるが、生活、金銭面、健康面とても心配している。支援制度を作してほしい〔24・男性・中/母〕
- ◆ 「県の支援は受けられない*」と言われた。親としてできることをするだけ〔27・女性・中/母〕

* 「県の甲状腺検査」を受診していないことを理由に適用外とされた

経済面（医療・通院費）

- コロナ禍で親にアルバイトを制限されている。検診の支払いを無料にしてほしい〔21・男性・避〕
- 医療費や保険料も国に全負担してほしい〔17・女性・避〕
- 甲状腺がん発症者の通院にかかる費用の援助〔25・女性・避〕
- 半年に一度、東京から福島県への通院がずっと続く。交通費の負担が大きい〔27・女性・中〕
- ◆ 3か月に1回経過観察で通院している。高校卒業してからの甲状腺の通院に対する支援をしてほしい〔16・男性・浜/母〕
- ◆ 現在の居住地（県外）の医療費助成制度が高校3年生終了で受けられなくなった。これ以降の甲状腺がんに関する通院は自費となり、負担が大きい。〔18・男性・中/母〕

- ◆術後、年2回医大まで通院中。県の甲状腺の受診代給付もいつまで続くのか心配〔24・男性・中/母〕
- ◆医療費の支援〔22・女性・浜/父〕
- ◆年に1回診察を受けている。通院等している人の費用を補償してほしい〔28・男性・会/母〕
- ◆みな生活苦。我が家はローンと固定資産税を病院代に充てていた。病院へ行けない人もいないはず。また、当時大人だった人にも同じ支援がほしい〔27・男性・浜/母〕
- ◆医療費もかかるので支援制度があると安心につながると思う〔18・女性・中/母〕
- ◆原発は関係あるかわからないが、娘はこの先も不安を抱えながら生きていかななくてはならない。3か月に1度の通院、薬代、診察代もばかにならないので、支援はありがたい〔24・女性・浜/母〕

2) 検査への要望

検査の継続

- 初期の段階でがんの治療ができるよう、今後も学校などで検査を継続してほしい〔26・女性・中〕
- 学校検査で甲状腺がんが見つかった。原発事故とは無関係でも、知らない間に発病している人がいると思う。早期発見のためにも、今後も学校検査等を県内で、他県でも行った方が良いと思う〔23・女性・会〕
- 学校検査を継続すること〔28・女性・中〕
- 検査は縮小せず拡充が必要。拡充して以前よりも発見者が多くなるのは当たり前だが、早期に見つけ、より早い対応ができる。社会人になると地元に戻ってまで甲状腺検査をするという意識が低い人が多い〔25・女性・中〕
- 早めに見つけられて良かったと思っているので、検査は続行してほしい〔25・女性・中〕
- 甲状腺検査でがんが見つかったので、今後も続いてほしい〔28・女性・中〕
- 甲状腺検査は続けた方がいい！〔24・男性・中〕
- 甲状腺がんは、長い年月の見守りが必要だと思うので、これからも検査は続けてほしい〔23・男性・浜〕
- 無料の検査は良いと思う〔26・女性・中〕
- ◆早期発見のためにも甲状腺検査は続けてほしい〔16・男性・中/母〕
- ◆早期発見、早期治療のために甲状腺検査を継続してもらいたい〔27・女性・中/母〕
- ◆原発との因果関係がハッキリするまで、何年でも検査等終了せず、これからも調査を続けてほしい〔20・男性・浜/母〕

検査機会の拡充・提案

- 20歳以上の人の検査があまり見られない。増やすと良いと思う〔21・男性・避〕
- 20歳以上になっても甲状腺の検査は必要。もちろん無償で!!〔17・女性・避〕
- 地元から離れた対象者にも検査を受けやすい形であればと思う〔25・女性・中〕
- 検査や検査結果の周知に力を入れること〔28・女性・中〕
- 検査を受けていない友だちが多い。私も高校生の時に検査して以降一度も検査に行っていなかった。ちゃんと検査を受けていれば、もっと早く発見できたのかな……と思う。自分は大丈夫と思わずにみんな検査を受けてほしい!!〔24・女性・浜〕

- 甲状腺検査はいつでも無料で受診できるよう、国もしくは東北6県は制度を整えてもいいのではないかと。自分のように早期発見できれば転移なども少なく、一定以上は健康な生活を送ることができるため、まずは健康状態を適切に理解することと、そこに対するハードルが下げられていることが重要と考える〔25・男性・中〕
- 一般の健康診断の中に甲状腺検査を入れてほしい〔28・男性・避〕
- 甲状腺がんは進行がゆっくりだが、有名な病院で手術を受けるとすると、7か月待ちなど、長期間待つことになる。手術を迷っていた私は、母の後押しもあり心を決め、7か月先に予約した。手術までの期間、何度か検査を受けたが、腫瘍は確実に大きくなっていった。腫瘍は、「濾胞（ろほう）がん」ではあったが、微小だったので、不幸中の幸いで済んだ。あの時手術を決断していなかったら、微小がんにとどまらず、転移していたかもしれないと思うと今でも恐ろしくなる。
この経験から思うのは、やはり「早期発見が何よりも大事」だということ。学校・職場での健康診断で、甲状腺の触診があれば、異常は少なからずわかるのではないかと。異常があれば、個人的にエコー検査を受けることで、早期発見につながり、本人にとっても良いことだと思う〔29・女性・中〕
- ◆20歳以上の人の甲状腺検査も2年毎に行ってほしい〔18・男性・会/母〕
- ◆検査機関が少ないことが気になる。息子の兄、弟の検査をしたいが、場所や日時が合わず、受けられていない〔23・男性・中/母〕
- ◆下の子の、集団甲状腺検査を予約したが、コロナの影響で検査を受けられず、1年が過ぎた。その後も何の連絡もなく、何かしらのお知らせはほしかった〔18・男性・浜/母〕
- ◆集団での検査は、手術をした児童が学校で孤立してしまう。個別検査が良いのでは？と考える〔16・女性・浜/母〕

3) 社会的理解と周知

- 甲状腺を取った後は体調面の変化がかなりあるのだが、外見から見るとわからず理解を得にくい。首の創傷だけでなく、体力や心身に影響を及ぼしているということへの理解を広めることも必要〔25・女性・中〕
- 甲状腺がんについて知らない人が多いと思う。どのくらいの人が治療しているのか等、国や県でも広め、理解が広がればいいと思う〔26・女性・中〕
- 一生薬を飲まなくてはいけない人、再手術、たいへんな思いをしている人は、原発と関係しているのではと不安がつる人もたくさんいるのではないかと。少しでも何か原因があるのなら、国や県でもわかりやすく伝えてほしい〔28・女性・中〕

4) 因果関係ほか

- 原発事故との関係を明らかにしてほしい〔26・女性・中〕
- 「手術をした方が良い」と言われ半摘出したが、「過剰診断」などとも言われ、本当に手術を受けてよかったのかと今も疑問が残る。この2つの言葉に矛盾があることにみな気付いていると思うし、心外だ。国等からはっきりとした答えが出ることを望んでいる〔28・女性・中〕
- 自分の発症の原因が原発事故の関係がなかったとしても、「甲状腺がんは放置しておけばよい」や「過剰診断」という言葉を聞くと悲しくなります。「これが見つからず経過していたら……」と思うと怖くなります。過ぎてしまったことはどうしようもなくなるので、体調を知る機会となる経時的な甲状腺検査と、正しい知識が広がることを願います〔28・女性・中〕

- 今年に入り、福島の甲状腺がんについてTVやネットニュースなどで大きく取り上げられるようになった。世間に関心を持ってもらえる機会ができてうれしく思う反面、風当りの強さを感じることも多く、自分が攻め立てられている気持ちになって辛い思いもした。特に、福島県の対応には、以前から期待はしていなかったが、県民として味方でいてほしいのに……と、毎回悲しくなる〔25・女性・中〕
- 国や福島県に対しては、甲状腺がん患者のことを知ってもらいたい。生れ育った福島県のは好きだが、福島県が拒み続けていることは悲しい。もどかしい気持ちでいっぱい〔28・女性・浜〕
- 身近で「甲状腺がんの情報」はなかなか入ってこない、「手のひらサポート」の便りは、自分以外にも頑張っている人がいると思えてとても心強い。正直、国や福島県で何かしているのかもよくわからない。原発でがんになったとも考えていないが、早く見つかったことは、感謝はしている〔28・女性・中〕
- ◆国は、原発と甲状腺がんとの因果関係を認め損害賠償をしてほしい〔27・男性・浜/母〕
- ◆原発事故と甲状腺がんの因果関係を国に認めてほしい〔22・男性・中/母〕
- ◆国に「甲状腺がんは原発が原因」だということを認めてもらいたい〔27・女性・中/母〕
- ◆福島第一原子力発電所の放射能汚染の事故との関連を国に認めてもらいたい。苦しんでいるのは子どもたち〔18・男性・避/母〕
- ◆（要望は）たくさんあるが……、特に思うのは、避難区域から約50kmしか離れていない「いわき市」は何でも「原発事故のせいではない」と言われていることが納得できない。放射能は間違いなく飛んできていて、学校の校庭等の土の入れ替えをしていたのに、飛んでいないなら、する必要もなかったのでは？ と思う〔20・女性・浜/母〕
- ◆放射線被ばくの影響評価が必要と思う。今後も長期にわたる継続した調査・検討を実施して、評価結果を示してほしい〔28・男性・中/父〕
- ◆事故発生時、当時の官房長官が「直ちに人体に影響はない」と発言したが、近年甲状腺がんがますます増加しているのは、影響が出始めているのではないのか？ 国は東電と組んで何事もなかったことにする気なのかと考えると、なんとも切なくなってくる〔16・女性・浜/母〕
- ◆本人は、手術前に「悪性」とだけ告げられ、甲状腺がんと知らずにいた。中学3年生になり、いろいろと疑問がわき、今年3月の受診時に医師から、わかりやすく告知され、真剣に話を聞いていた。医師は今も「原発とは関係ない」と言っている〔15・女性・中/母〕
- ◆福島県の子どもの甲状腺検査が始まって10年。当人たちは原発事故との因果関係など全く気にしていないし、どうでもいい。手術したことには変わりない。健康に影響のないがんまでも見つけ出し、必要のない手術を受けた方もいるだろう。ホルモン分泌に欠かせない甲状腺を切除し、少なからず体に負担になっているはず。手術を選択したのは確かに本人や親であるが、福島の子もただ学校で検査をし、結果、恐ろしい封書が届いたのだ。通院や健康相談など、もっと国が支援するべきではないか。術後、国や県から何の連絡もないので、ただ原発事故の因果関係を知りたいための検査だったのだろう〔19・女性・中/母〕
- 裁判の判決が気になる。辛い思いをした人が報われるように願う〔29・女性・避〕
- 裁判が気になる〔19・男性・浜〕
- 1月に起こされた裁判においては、原告たちに寄り添った対応を強く望む〔25・女性・中〕

3 医療機関への要望

他病院での受診・病院間の連携ほか

- 経過観察の診察は別の病院でもできるようにしてほしい〔27・男性・中〕
- 地元から離れた対象者が、近くの病院、かかりつけ医で検査が受けられるような連携が必要〔25・女性・中〕
- 検査や手術を受ける際、郡山市から福島市まで通った。郡山市内で検査などはできないか担当医に何度か聞いたが、「郡山市の病院で検査を受けても、いずれ医大に来ることになる」と言われた。11年もの間、3か月に1回、半年に1回、福島市の医大に通い、やっと今年の夏から郡山市の病院で検査できるようになった。もっと早く対応してほしい。私たちの意見を聞いて、前向きに検討してもらえよう願う〔28・女性・中〕
- 半年に1回、術後検診を受診しているが、毎回4時間くらい待たされる。子どもがいる親としては時間調整がたいへん。もっと短時間で手術担当医に診察してもらえればと思う〔30・女性・浜〕
- ◆術後の経過観察期間の診察において、甲状腺の検査だけでなく、1年に1度でいいので定期的に他の検査も行ってもらいたい〔18・男性・会/母〕

専門病院による診察

- 市内に甲状腺専門の病院を作り、原発に関係なく全ての甲状腺がんの人を無償で診療してほしい。〔18・男性・浜〕

精神面のサポート

- 術前も術後も精神面のサポートもあるといいと思った〔21・男性・避〕
- 「がん」と聞くと、本人や家族はとても不安になる。安心できるような説明やサポート体制が整っていればいいと思う。私は丁寧に説明してもらい、サポートがあったので、発症して5年が経過した今、何も問題なく過ごせていて、とてもありがたい〔24・女性・中〕

* 「手のひらサポート」へのメッセージ

アンケートには、「手のひらサポート」に対するメッセージを書いた方もありました。一部を紹介します。

「手のひらサポート」へのメッセージ

- 以前、出産や子育てに不安があるとお伝えしたところ、声をまとめてくださり参考になりました。ありがとうございました！！〔28・女性・浜〕
- 病気が発覚して、どん底だった時に、このようなサポートがあると知ることができ、救われました。〔28・女性・中〕
- いつも献身的なサポートありがとうございます。お便りが届くたび、ずっと支えてくださる方がいる安心感をもっています。体のことなので、まだまだ不安です。引き続き何卒よろしくお願いします〔27・女性・中〕
- 業務委託で受けていた仕事が、コロナの影響でなくなり、就職活動をすることにしました。このような現状なので、サポートさんからの給付金はとても助かります〔28・女性・中〕
- ◆ 「手のひらサポート」さんに療養費を助けていただき、たいへん助かっています。またいつも電話し、親切に教えていただきありがとうございます。〔28・男性・中/母〕
- ◆ いつもお知らせ、情報、ありがとうございます。今は参加するのは難しいですが、いろんな行事のお知らせ情報を見て、救われる気持ちになります〔31・女性・中/母〕
- ◆ 差額の給付、ありがとうございます。いつも基金の皆様（支援して下さる方）に感謝しています。気にかけていただけてうれしいです〔18・女性・中/母〕

「手のひらサポート」アンケート

—甲状腺がん当事者の声 2022

III 福島県外版

1 当事者の状況 …………… 31

■ 性別・現在の年齢

1) 健康状態

■ 診断・手術・RI 治療の状況

■ 現在の体調

● 健康面で心配なこと

体調不良（精神面も含む）/再発・転移/治療・将来の健康/
妊娠・出産/薬の服用

2) 生活面

■ 現在の状況

● 生活面で心配なこと

経済面（医療費・就労）/保険/告知・将来の不安

* 現在の生活状況について

2 自治体や政府への要望 ……………37

1) 支援についての要望

就業・雇用/妊娠・出産サポート/

経済面（医療・通院費）/支援の周知

2) 検査への要望

整備と拡充/経済面

3) 社会的理解と周知

4) 原発事故関連の調査ほか

3 医療機関への要望 ……………39

* 「手のひらサポート」へのメッセージ

「手のひらサポート」アンケート

—甲状腺がん当事者の声 2022

〈福島県外〉

■調査要項

NPO 法人 3・11 甲状腺がん子ども基金「手のひらサポート」は、甲状腺がんと診断された人へ療養費 10 万円を給付してきました、2022 年 8 月より、この額を 5 万円増額し、すでに給付を受けた人にも遡及給付することとしました。本報告は、その際のアンケート結果です。

調査実施者 : NPO 法人 3・11 甲状腺がん子ども基金

対象者 : 当基金療養費給付事業「手のひらサポート」受給者

(福島原発事故当時 18 歳以下で対象地域に居住、事故後甲状腺がんと診断された人)

対象地域 : 1 都 14 県 (秋田、岩手、山形、宮城、栃木、群馬、茨城、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、長野、山梨、静岡)

調査実施期間 : 2022 年 7 月 11 日～10 月 25 日

実施方法 : 郵送

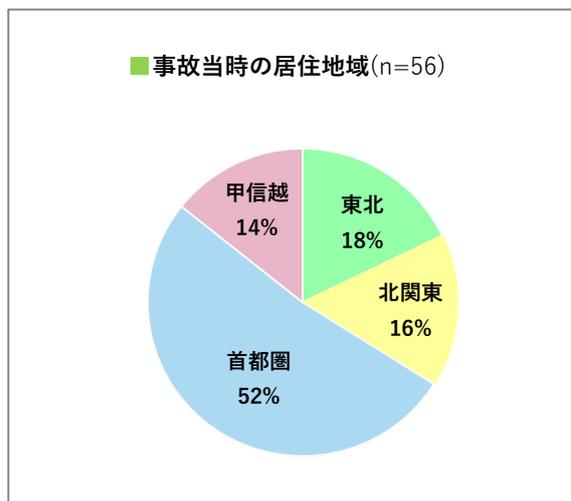
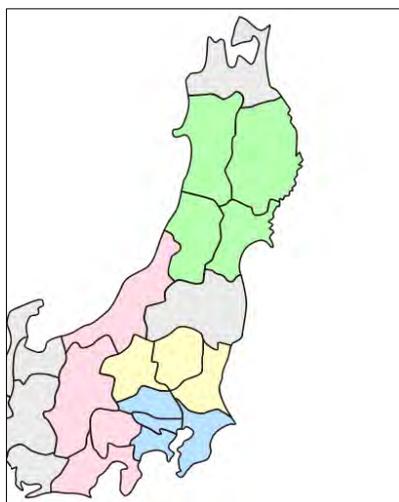
回収率 : 56 人/65 人 (86.2%)

回答者 : 女性 46 人、男性 10 人 (本人 40 人、保護者 16 人)

事故当時の年齢 : 2 歳～18 歳

■事故当時の居住地域

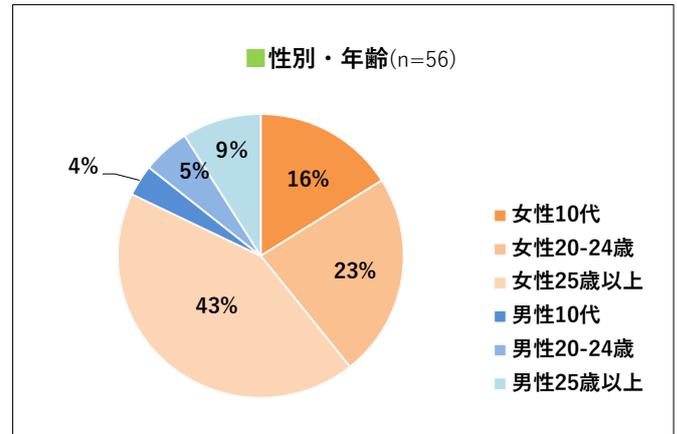
- ・東北 10 人 (宮城 7、岩手 2、秋田 1、山形 0)
- ・北関東 9 人 (茨城 7、栃木 1、群馬 1)
- ・首都圏 29 人 (東京 10、埼玉 8、神奈川 8、千葉 3)
- ・甲信越 8 人 (長野 4、静岡 2、山梨 1、新潟 1)



1 当事者の状況

■ 性別・現在の年齢

女性：46人（82%）	
10代	9人（16%）
20-24歳	13人（23%）
25歳以上	24人（43%）
男性：10人（18%）	
10代	2人（4%）
20-24歳	3人（5%）
25歳以上	5人（9%）



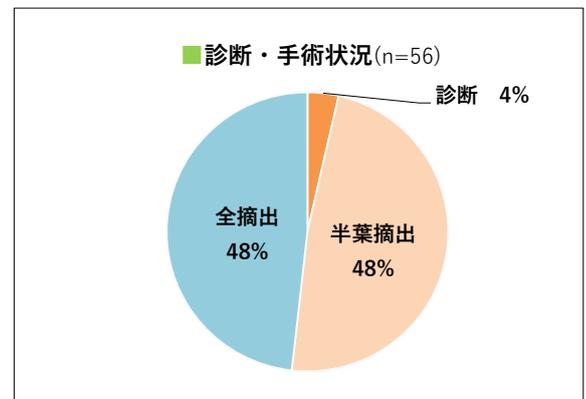
事故から10年以上が過ぎ、多くの人は20代になっていますが、事故当時10歳未満で現在10代の人でも20%を占めます。

甲状腺がんは特に思春期以降、男性に比べ女性が3~5倍と大きな差が出てくるがんです。福島県外の回答者の男女比は「1：4.6」となっています。限られた人数ではありますが、各年齢層とも、一般散発的な甲状腺がんの男女比と同様な傾向を示しています。

1) 健康状態

■ 診断・手術・RI治療の状況

・診断*（未手術）	2人（4%）
・半葉摘出	27人（48%）
・全摘出	27人（48%）
* 診断：がんと診断され、まだ手術をしていない人	
・再手術	8人（14%）
・RI治療	20人（36%）
（RI治療複数回）	12人（21%）



公的、定期的な「甲状腺検査」が行われていない福島県外では、福島県とは異なり甲状腺「半葉摘出」と「全摘出」が同率です。

「再手術」をした人は14%ですが、「RI治療」を受けた人が36%、「RI治療複数回」の人も21%と、福島県の10倍近くとなっており、甲状腺がんが進行した段階で発見され、重症化している傾向がわかります。

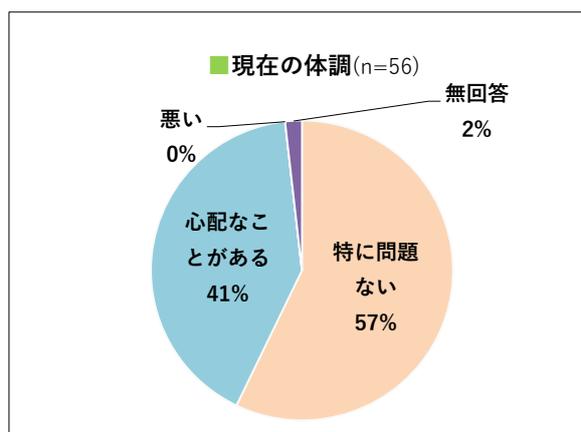
■現在の体調

①特に問題ない	32人 (57%)
②心配なことがある	23人 (41%)
③悪い	0人 (0%)
・無回答	1人 (2%)

②、③と回答した人に、具体的な状況をたずねました。

6割近くは、日常の体調には問題がないと回答していますが、本人は「問題ない」と回答していても、保護者から見た状況では異なる、という回答もありました。

福島県に比べると、県外ではがんが進んだ状態で発見される人が多くなっています。若い年齢での厳しい治療の人もいることから、医療機関や自治体、勤務先などのきめ細かなサポートが望まれます。



●健康面で心配なこと

現在の心配としては、疲れやすさ、体調不良が目立ち、メンタル面の不調を訴える声も少なからずあります。「再発・転移」「妊娠・出産」「検査値」などから、将来の健康への不安などがうかがえます。

「複数回の RI 治療」を受けざるを得ない人がいることは、厳しい現実であり、「予後が良いがん」などと楽観視はできません。

体調不良（精神面も含む）

- 疲れやすい〔25・女性・山梨〕
- 時々、手がふるえて力が入らなくなる時がある〔28・女性・茨城〕
- 温度差に体が対応しにくくなったような気がする（関係があるかわからないが）〔30・女性・千葉〕
- 術後、半年に一度甲状腺検診に通っている。6月の検診時、残っている1/3の甲状腺の血流が多く、このまま血液検査の数値が悪くなれば「バセドウ病」かもしれないと言われ、心配している〔29・女性・東京〕
- TSH値が手術後から一貫して正常値範囲を超えているので、定期的な血液検査が必要。下垂体が正常値より大きく、下垂体腫瘍の疑いが否定できないため定期的にMRIによる観察が必要。〔20・女性・埼玉〕
- 医師には「問題ない」と言われている。天気が悪い日、手術した部分が引っ張られるような感覚があり、気分が下がる〔29・女性・宮城〕
- 心療内科にも通院しており、心の健康を保てるか心配〔26・女性・埼玉〕
- 大学卒業後、学習塾に就職したが、休日が少なく疲弊してしまい、転職。加齢のためか、甲状腺を摘出しているためかわからないが、疲れやすいことが多い。頑張っても働かないと、と思いつつも、無理をしない方が良いのではという気持ちもあり、悩んでいる〔24・女性・神奈川〕

- ◆ 大汗をかく。疲れやすい。寝てばかりいる。本人は気付かないことが多い〔21・女性・宮城/母〕
- ◆ 中学生になり、忙しさゆえ体力的にもバテてしまうのだと思うが、かなり疲れやすいので心配。術後「橋本病」になり、チラーゼンを服用、量も増えている状況〔15・女性・埼玉/母〕
- ◆ 本人は「健康面は特に問題ない」と回答しているが、親から見ると、とても疲れやすいと感じる。学校ではいろいろとよくがんばって、まわりの子たちと何ら変わりなく過ごしているようだが、家へ帰るとグタッと疲れてしまい、寝てしまう。首のキズは少しずつ感覚が戻ってきてはいるようだ〔15・男性・長野/母〕
- ◆ 生理不順との関係性〔14・女性・茨城/母〕

再発・転移

- RI 治療では取り切るのが難しそうな病巣が残っている〔23・女性・東京〕
- 今後も通院をし、治療を続けていくこと、再発など〔26・女性・東京〕
- 再発の心配〔22・女性・神奈川〕
- 通院の頻度は減ってきたが、手術したあたりが時どき痛んだり、そもそものがんが小さく見つかりにくかったので再発していないか不安がある〔29・女性・神奈川〕
- 再発がいつも気がかり〔23・男性・茨城〕
- ◆ 再発した場合、どのような症状が出るのか〔21・女性・宮城/母〕
- ◆ 本人が近くの基幹病院に勤務しているので、相談・診療には時間がかからず安心しているが、体力面で不安があり、残業などすると疲れる。最近、無理をすると、じんましんが出てくる。再発することが心配〔29・男性・新潟/父〕
- ◆ リンパ節の転移の再発がまたあるかもしれない〔17・女性・栃木/母〕
- ◆ 薬を忘れることがある。遠隔転移などが心配〔20・女性・埼玉/母〕
- ◆ 肺に転移があるため、悪化しないか心配ではある。3か月に1回受診し血液検査や年1回CTをとっていて、いまのところ落ち着いてはいる〔22・女性・神奈川/母〕
- ◆ 肺に転移しているため、8回目のRI治療をすることになった。病状が進まないよう祈りながら生活をしている〔21・男性・長野/母〕
- ◆ リンパ節への転移の可能性がある（CT結果）。大きさは何年も変わっていないので、経過観察中だが心配〔19・女性・長野/母〕

治療・将来の健康

- 結婚し、国外に行く予定があるため、他国で治療ができるかなど心配〔26・女性・東京〕
- 「急に体調が悪くなり、働けなくなったら」という不安はずっとある。仕事でプレッシャーを感じて体調を崩したことがあったが、甲状腺を全摘出したこと関係はあるのだろうか〔25・女性・東京〕
- オペをしていないので悪化しないか心配〔23・女性・千葉〕
- 9月から留学予定。ただしアイソトープの結果から転移した可能性が否定できないため、半年に1回帰国し、エコーと血液検査。並行して現地の病院でも毎月血液検査（TSH値）が必要〔20・女性・埼玉〕

妊娠・出産

- 引越しをしたが、転院の OK が出ず、片道 1 時間をかけて通院する。妊娠中なので長時間の運転となるとたいへん。また、出産も病院になるため、家族のフォローが必要になってしまうことが心配〔28・女性・群馬〕
- チラーヂンを毎日服用し、TSH は問題ないとのことだが、疲れやすく、特に生理前がひどく、年をとることが怖い。子どもを持つか考えているが、一歩踏み出せずにいる〔30・女性・埼玉〕
- 妊娠により甲状腺機能やサイログロブリン値が変動し、月に 3 回から 1 回への受診になった。体も疲れやすく、病院の受診がしんどくなってきた。また、コロナ増加のため、毎回の通院も人が多く不安〔28・女性・群馬〕
- 結婚して、子どもを産むのが心配〔23・女性・千葉〕
- ◆ 結婚・出産などについて〔20・女性・埼玉/母〕

薬の服用

- ◆ 一生飲み続ける薬（チラーヂン等）の副作用が心配〔15・女性・神奈川/母〕

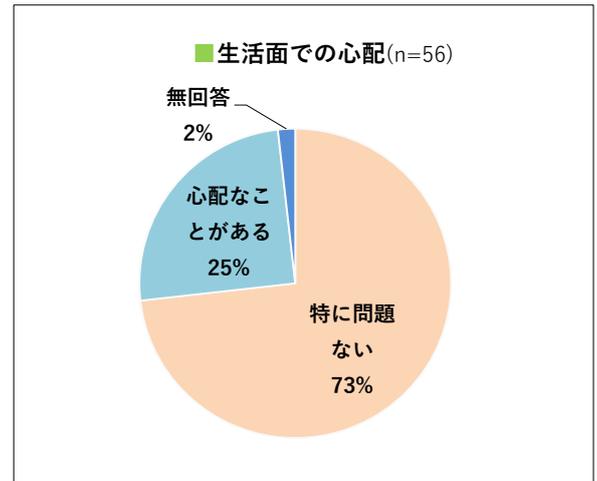
2) 生活面

■現在の状況

- ①特に問題ない 41人 (73%)
- ②心配なことがある 14人 (25%)
- ・無回答 1人 (2%)

②と回答した人に、具体的な状況をたずねました。

約7割が「特に問題ない」との回答であったことは、安心材料ではありますが、独立して生計を営む年齢に達した人は、医療費・通院費・保険の問題など、主に経済的な不安を抱えています。



●生活面で心配なこと

収入、医療費、就労の面、保険への入りづらさなど、経済面での心配が目立ちます。コロナ禍の影響も受けていると思われます。発症年齢が若かった人では、本人への告知について保護者の悩みもありました。

経済面（医療費・就労）

- このまま体調が悪くなって働けなくなると、収入が減ってしまうのではと心配〔29・女性・東京〕
- 契約社員を打ち切られた後、派遣として仕事。その後別の会社に契約社員となり現在に至るが、正社員ではないので不安である〔27・女性・神奈川〕
- 夫のサポートありきで生活しているので、夫に何かあった時に自分は何もできない。雇用が不安定（非正規）で、正規職員の仕事をずっと探しているが、なかなか採用に至らず、20年後が心配〔30・女性・埼玉〕
- 術後10年以上になるが、薬の処方のため、3か月に一度と年に一度、いろいろな検査を受けている。転職を考えているが、通院で休むことがあるので正直不安！ 心配している〔30・女性・神奈川〕
- コロナ禍が長いので、仕事のことや感染の不安が少しある〔30・女性・千葉〕
- 定期的な通院により、居住地、働ける時間が制限される。〔23・女性・東京〕
- ◆就職後、ストレスがかかって、ホルモンバランスの変化等は大丈夫なのか。定期検診にきちんと通院できるのか〔21・女性・宮城/母〕

保険

- 生命保険の加入ができない、または金額が高い〔23・男性・茨城〕
- 保険関係を見直してほしい。一言に「がん」でくくられてしまうと不利が大きいため。〔28・女性・神奈川〕

告知・将来の不安

- ◆本人は腫瘍（良性）と思っているので（発症年齢が低かったので告知していない……）、どうしていったらいいのか……と。看護の勉強をしているので、気付いていくのだろうと思うが、今後本人への説明が悩み〔19・女性・長野/母〕

- ◆娘には、がんだったということを伏せている。発病したのが小2と低学年だったため。今後、いつ、本当のことをどのように伝えたらよいのか、私や夫にとって大きな課題。おかげさまで元気に生活できていることが支え。娘の性格などを考慮すると、病名を伝えるのは、まだ数年先になると思う。難しい。結婚や、就職のことまで考えると、気分が落ち込むこともある〔13・女性・茨城/母〕

* 現在の生活状況について

本アンケートでは、現在の状況についても質問しました。

健康面や生活面で特に問題ないと答えた方からも回答をいただいています。(一部紹介)

現在の生活状況

- 大学卒業。現在夢に向かって頑張っています〔28・男性・埼玉〕
- 昨年の10月に志望していた企業に内定をもらい、現在元気に働いています〔25・女性・東京〕
- 就職して6年目。現在は半年に一度の検査で、落ち着いている状況。病気をしたことにより理解のある方と無事に結婚することができました。出産も視野に入れていければと思います〔26・女性・茨城〕
- 手術からもうすぐ5年。今のところ再発もなく、元気に過ごせています。経済的な支援や心のケアに感謝しています〔22・女性・神奈川〕
- 毎日、学校に通い、友達との関係も良好で、困っていることは特にありません〔15・男性・長野〕
- 元気に過ごしています。今年の1月に入籍し、10月に結婚式をしました。これからは元気に過ごしていきたいです〔28・女性・宮城〕
- 社会人2年目として金融機関に勤務。以前は体力がなくすぐに疲れていましたが、今はそれもなく、体調を崩すこともなくなりました〔24・女性・東京〕
- 転移の可能性はまだ残っていますが、手術は上手くいき、今のところは良好な健康状態。年1回の通院、毎日薬を服用しながら、様子を見ています〔22・女性・埼玉〕
- この病気を機に看護師を目指し、今、専門学校2年生です〔19・女性・宮城〕
- ◆看護学生1年生。定期検診は7か月に1回。ホルモン値正常、内服なし。元気です〔19・女性・長野/母〕
- ◆半年に一度、血液検査を受け、チラーヂンを処方されています〔13・女性・茨城/母〕

2 自治体や政府への要望

若い年齢でがんと診断された本人、および家族のショックと、その後の経済面を含めた日常への影響は、当事者以外の人には想像しにくい面があると思います。その経験を踏まえての、甲状腺がん患者への支援や今後の検査への具体的な要望を聞き取りました。

就労や妊娠・出産年齢にある世代の悩みがうかがえ、甲状腺がんに対する社会的理解や配慮、および経済・医療支援を求める声は切実です。

「甲状腺検査」については、福島県外でも気軽に受けられる制度を求める声が多くあり、医療機関への要望もあげられました。また、原発事故との関連の調査を求める声もあります。

1) 支援についての要望

就業・雇用

- がんサバイバーも責任ある仕事ができるよう、雇用を増やしてほしいと思う。他の健康な人より疲れやすい以外は問題がないので、理解してくれる企業、人が増えたらいいなと思う〔30・女性・埼玉〕
- 手術のため仕事を休職していた期間があり、転職の際、正直に話したら「病気だった人」というレッテルを貼られ、不利になることがあった。事情があって働けなかった人たちが他の人たちと同じように就職活動できる制度を作してほしい〔25・女性・東京〕

妊婦・出産サポート

- 妊娠中から現在まで、チラーゼンの量調整等で頻繁に病院を受診しなければいけないのが負担。甲状腺の疾患については、妊娠・出産へのリスクも多少あると思う。実際に私も流産を経験した。妊娠中や子育て中の人に対しての支援金制度や妊婦健康診断の無償化（市町村からの助成券+αで）等があるとストレスなく妊娠・出産・子育てできると思う〔28・女性・宮城〕

経済面

- 医療費免除になるとよいと思う〔29・男性・静岡〕
- 全ての都道府県において、所得制限なしで18歳までの子どもの医療費を無償化してほしい〔22・女性・埼玉〕
- 進行が遅いとはいえ、定期的に診断を受けないといけないのがストレス。若い世代でがんと診断されたら、メンタル面や金銭面でも援助してほしい〔28・男性・埼玉〕
- ◆現在「小児慢性特定疾病医療費補助」を利用しているが、最長で20歳で終了。薬代、アイソトープ代の負担が大きいので、小児で発病した疾病は成年後も助成制度があると助かる〔16・男性・埼玉/父〕
- ◆国や県へは、手術後の通院（傷あとの治療なども含めて）まで支援してもらいたい〔14・女性・茨城/母〕
- ◆これからの通院費、薬代も含めて、無料にしてほしい〔15・女性・神奈川/母〕
- ◆今住んでいる市は、「公的な見舞金（小児慢性疾患）」として、1年に2万円支給している。もう少し支給額が上がっても良いのではと思う（物価上昇に合わせて）〔13・女性・茨城/母〕

支援の周知

- 甲状腺がんに限らず、支援制度の周知に注力してほしい。保険や自治体の支援、「手のひらサポート」の支援も含め、さまざまな助けも、知らなければまったく受けられない。本当に支援を必要としている人の生活を守れないと思う〔27・男性・東京〕

2 検査への要望

整備と拡充

- 何の前ぶれもなく発症しているので、学校や企業の定期検診に組み込んでよいと思う〔26・女性・埼玉〕
- 健康診断の際、35歳以下はがんの検診がないので、低リスクといえどもするべきと考える〔27・男性・東京〕
- 健康診断の項目として甲状腺検査をした方がよいと思う〔25・女性・山梨〕
- 甲状腺がんのことを知った多くの人からの支援をととてもうれしく思う。早期発見のために、震災時、原発周辺に住んでいた人を中心に甲状腺検査を実施してほしいと思う。現在看護師として病院勤務しており、がんの早期発見がどれほど大切かを日々感じている。少しでも多くの人に甲状腺がんを知ってもらい、早期発見につなげられるような支援が広がることを願う〔26・女性・宮城〕
- 国の「女性がん健診」のように、甲状腺の検診も早期発見できるような仕組みがあるといいなあと思う〔29・女性・東京〕
- 甲状腺検査を気軽に受けられるようにする〔25・女性・宮城〕
- ◆今後、国は検査を縮小していくのではないかと危惧している。また関東では、行政での検査はなく、この先体制を整えるとも思えない。時間とともに風化してしまうのが何よりも気がかりだ。福島だけでなく、関東でも大きな影響があったことを忘れないでほしい。今住んでいる市では、子ども医療費は中学3年までで、来年からは3割負担。娘が、年2回の検査や先の不安を一生抱えていくのを考えると辛い。せめて検査に対する支援は国や県にしてほしい〔15・女性・埼玉/母〕
- ◆中学生、高校生の学校の健康診断時に首の触診くらいは入れてほしい〔20・女性・埼玉/母〕
- ◆子どもが甲状腺がん罹患したことについて、行政は、把握・追跡もせず、成人してから先も長く定期検診に通院し、不安をもって生活していくことになる。甲状腺がんの発症から10年、20年、罹患者が増加していないか、治療はどのようなものが多いのか、国・市町村・県が把握し、追跡、開示してもらいたい。現状は個人の疾患の扱いで、対応しているのは福島県のみ。県境に壁はないはずなのに！〔21・女性・宮城/母〕

経済面（医療費・通信費）

- MRIなどがある時はどうしてもお金がかかるので、少しでもいいので補助などあれば、と思う〔29・女性・神奈川〕
- 検査などを無料にしてほしい。生活もあるので金銭的にきびしい〔23・女性・千葉〕
- 基金以外にも、国、県、市町村での支援があるとうれしい。お金でなくても、術後の検査無料など〔29・女性・宮城〕
- 甲状腺がん検査は少額でできるように整備してほしい。私の場合、たまたま母親の勧めで検査し、がんを発見した経緯があるので、気軽に、かつ検査を進んで行えるよう何か対策を行い、がん気付いていない人の未来が守られればいいなと思う〔30・女性・千葉〕

- 定期的に検査をしてほしい。検査をする機会や費用など、もっと受けやすくしてほしい〔28・女性・茨城〕
- ◆検査費用が高額、薬も一生飲まないといけないので、補助金が出たらいいと思う〔17・女性・栃木/母〕

3 社会的理解と周知

- 甲状腺がんのことも受けとめてくれた人と結婚ができた。出産はどうなるかわからないが、「甲状腺がんを経た人でもふつうに生活できるよ！」と知ってもらうためにも前向きに考えている。知ってほしいのは「甲状腺がん≠他のがん」ということ。確かに進行がんではあるが、しっかり理解し治療すれば治ることも多い。がんを患ったことで一歩ひかれてしまうのは正直悲しい〔26・女性・茨城〕
- 甲状腺がんは他のがんと比べると、おとなしく、死にくいがんだと言われるが、どんながんにも転移の可能性があるし、日々転移していないか不安に感じる。甲状腺を病むとどれだけ疲れやすいのか、当人しかわからないところもあると思うが、このような病気があること、がんを取ったあとも、数値でははかれない辛さ、苦しみがあつことを、国にはもっと周知してほしい〔30・女性・埼玉〕

4 原発事故関連の調査ほか

- ◆福島第一原発事故の影響調査を広範囲でもしてもらいたい。特に、セシウムの残量調査をしてもらいたい〔29・男性・新潟/父〕
- ◆原発事故から11年経過していることから、「甲状腺がんの全数調査」をしてほしい。2011年以降の小児（現在30歳以下）を対象に、診断された年齢・治療内容・予後・所在地（変遷も含む）の調査、これを国でもやってもらいたい。「2030年に実施します」でも構わないので〔16・女性・茨城/父〕
- 国や行政からのサポートはゼロなので、このまま何もなしになるのだと思う〔23・男性・茨城〕
- いろいろな背景や事情について細かく知れてはいないので、堂々とは言えないが、原子力発電所をむやみに多く稼働させないでほしい。人々の暮らしに電力が欠かせないのはわかるが、需要が増えるままに稼働率・設置数を増やし、3・11のような事故が起こる可能性を高くしてしまうのは少し間違っているような気がする〔24・女性・神奈川〕

3

医療機関への要望

- 手術のあと腫れが出た。1～2か所病院を回り、検査ばかりの日々だった。今思っても、体力的、金銭的にすごくたいへんだった。近場で甲状腺検査を受けられるところが増えれば、がんで苦しむ人が少し楽になるのかなあと思う〔30・女性・神奈川〕
- 甲状腺に関する相談ができる医師を増やす〔25・女性・宮城〕

* 「手のひらサポート」へのメッセージ

アンケートには、「手のひらサポート」に対するメッセージを書きくださった方もありました。一部を紹介します。

「手のひらサポート」へのメッセージ

- 経済的なご支援や心のケアをしていただき、本当に感謝しています〔22・女性・神奈川〕
- 給付金のおかげで検査代や薬代を賄えています〔25・女性・山梨〕
- 昨年で術後 5 年をようやく迎えました。結構長く感じていたので、一人ホッとしています。いつも手厚い支援、本当にありがとうございます。本当に助かっています。皆様のご支援を受けるようになってから、自分も今後の人生の人のために何か返していきたいと思うようになりました。本当に感謝しております〔27・男性・東京〕
- いつもお便りや案内を楽しみにしています。「手のひらサポート」のおかげで、自分と同じような経験をした仲間がいる、みなさん前を向いて頑張っていることを知るきっかけになりました。支援制度には心から感謝します。関わりのあるすべての皆様へ、ありがとうございます〔28・女性・東京〕
- 仕事が不定休で、イベントになかなか参加できず残念ですが、私でよろしければ微力ですが、協力させていただきますので、いつでもご連絡ください〔26・女性・宮城〕
- 手厚いご支援、とても心強いです。支援していただいたお金で、長年の夢である留学も実現できました。病気になっても自分がやりたいことをやれてとても嬉しいです。〔22・女性・埼玉〕
- いつもお気遣いありがとうございます。私たちのために様々なことをしていただけているのが伝わり、頭が下がる思いです。「手のひらレター」のセラピーヨガを試してみたところ、体がほぐれて気持ちよくなりました。これからも機会がある度に行うことにします。皆様の存在に感謝、そして励みにしつつ、毎日を過ごしています〔23・女性・東京〕
- 大学生になったばかりの頃、甲状腺乳頭がんを手術しなくてはいけなくなりました。まだ大丈夫だろうと保険に入っていなかった矢先にこのようなことが起こり、「手のひらサポート」給付金はとても有難かったです。また、「がん」という言葉を聞いて不安を感じる母に、やさしく対応してくださったのを覚えています。母娘ともに感謝しています〔24・女性・神奈川〕
- ◆ 給付のご案内いつもありがとうございます。本人の生活に役立つよう活用させていただきます〔16・男性・埼玉/父〕
- ◆ お陰様で元気に大学生活を楽しめています。アルバイトなどであまり無理をさせたくないのですが、母の気持ちはなかなか届かないですね！〔20・女性・埼玉/母〕
- ◆ 「手のひらサポート」のおかげで、何かあったら相談できる場所があるんだと安心した気持ちで生活が送れます。ありがとうございます〔19・女性・長野/母〕

あなたの暮らしを支援します

「手のひらサポート」給付金

3・11 甲状腺がん子ども基金「手のひらサポート」は、甲状腺がんの子どもと若者、そのご家族に療養費を給付しています。

このたび、給付金の増額が決まりましたのでお知らせします。

対象は、原発事故後に甲状腺がんと診断された10歳から30歳*の方です。治療をされている方は、まずはご相談ください。

* 1992年4月2日～2012年4月1日生まれの方／数年前の手術でも申請可能です。
* プライバシーや個人情報については最大限に配慮した対応をお約束します。

基本給付	甲状腺がんの診断・手術を受けた方	15万円
追加給付	再手術を受けた方	15万円
	アイソトープ(RI)治療を受けた方	15万円
	RI治療複数回の方 2回目以降	10万円/回
	術後に妊娠・出産された方	5万円
	通院交通費の助成	5万円/年間

* そのほか「ひとり親世帯への特例」や、「台風被害」「コロナウイルス対策特別支援」など、受給者一人ひとりの事情や社会的状況に応じて支援を拡充しています。



● 「手のひらサポート」リーフレット

● 給付対象地域 ●

- 秋田県 岩手県
- 山形県 宮城県
- 福島県 群馬県
- 栃木県 茨城県
- 埼玉県 千葉県
- 東京都 神奈川県
- 新潟県 長野県
- 山梨県 静岡県



福島県 129人 県外 65人 計 194人
(総額約 6150万円・2022年10月現在)

福島県県民健康調査の甲状腺検査では、これまでに280人以上が甲状腺がんと診断されています

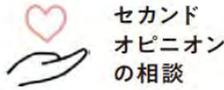
一人ひとりに寄り添ったサポートを届けます

あなたの希望や不安、悩みをサポート

ひとりじゃないよ



無料
電話相談



セカンド
オピニオンの
相談



同じ思いをしている
仲間との
交流会や
イベント開催



情報紙
手のひらレター
をお届け

知りたいこと、伝えたいこと届けます

「Q&Aパンフレット」 好評です!

「新型コロナウイルス対策 Q&A」、
「甲状腺がんと妊娠 Q&A」をお配りしました。

“寄せられた感想”

- ☺ 知りたかったことがクリアになり、安心しました。
- ☺ 誰に聞いたら良いかわからない、気になっていたことが理解できました。とくに経験者の声にはとても励まされ、「少しずつ不安を消していこう」と前向きになりました。



「原発事故から10年 いま当事者の声をきくー甲状腺がん当事者アンケート105人の声ー」を発行し、新聞やニュースで広く取り上げられました。

そのほか「体調改善のためのヨガ動画」なども配信しています。

HPで見られます!



● ご支援ありがとうございます

基金設立以降、国内外の多くの方々から、ご寄付によるご支援をいただいています。これからも「サポートの充実」「甲状腺検査の検証」や情報発信、提言などに努めてまいります。どうかご支援をお願いいたします。

● ご寄付・サポートはこちらからお願いします

【郵便振替】：記号番号 00100-3-673248
3・11 甲状腺がん子ども基金

【銀行振込】：城南信用金庫 営業部本店 普通預金 847987
特定非営利活動法人 3・11 甲状腺がん子ども基金

* クレジット決済も可能です





「手のひらサポート」アンケート
—甲状腺がん当事者の声 2022

2022年11月30日 発行

編集：崎山比早子・吉田由布子（3・11甲状腺がん子ども基金）

編集制作：合同会社五十音

発行：特定非営利活動法人 3・11 甲状腺がん子ども基金

〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町 4-15 新井ビル 3階

電話：03-5369-6630

Mail：info@311kikin.org

Web：<https://www.311kikin.org>



©3・11 甲状腺がん子ども基金 2022 Printed in Japan ISBN978-4-9912251-1-6

* 転載・引用される際には、ご連絡くださいますようお願いいたします。

ISBN978-4-9912251-1-6

C0036



9784991225116